大企業を辞めて人生のレールを脱線してみた

お金と時間の自由を手に入れる攻略本

マスタング［著］

年収1億円の23歳との出会い

父の死をきっかけに日本一の大企業を辞めた落ちこぼれが

月収500円➡100万円に成長する物語

はじめに

昔、僕はこんな風になりたいと思っていた。

良い大学を出て、良い会社に入り、将来は年収１０００万。

２０代は女の子と遊びまくって、結婚するぐらいまでには落ち着きたい。

３２歳には３年付き合った彼女と結婚したい。

稼いだお金の一部は貯金して、投資や資産運用に回して賢くお金を増やそう。

良い時計欲しい。

良い車欲しい。

不動産投資も興味がある。
子供が出来たら休日は子供とドライブ。
仕事をバリバリ頑張って社内で一目置かれる存在になって、出世して、役職もついて
同期より高い給料をもらって、
同期に「お前は出世したよなー」
「いやー俺なんて全然だよ。もっと頑張らなきゃ」って謙遜してみたい。

責任あるプロジェクトを任されて、
尊敬している上司に「期待してるぞ」って言われたい。

これが僕が思い描く、理想像だった。

良い会社に入り、出世して、高収入になって
良い車に乗って、良い時計つけて、美人の奥さんと結婚して、
同期よりも良いポジションに就きたいと思っていた。

大学院を卒業して憧れのトヨタ自動車に入社した僕は
バラ色の未来が待っていると思っていた。

しかし、現実はそう甘くはなかった。
実際の僕はひどくダメ人間で、落ちこぼれだった。

会社員時代は全ての仕事が期限ギリギリか遅れて提出。

プレゼンでは緊張して「ええええ、、ああああのおお」しか言えず、
上司に怒られ、同期からは冷ややかな目で見られ、
報告資料が間に合わないからと会社を仮病でズル休みすることもしばしば。
周りに迷惑をかけてばかりで、上司や関係者にはいつも怒られていた。

僕が社長だったら僕みたいな人間は絶対に雇いたくないし、
1日でも早くクビにしてやりたいと思うぐらい
仕事が出来なくてポンコツだった。

その3年後、僕はトヨタ自動車を辞めた。
転職したわけでもないし、ニートになったわけでもない。

大企業の社員とは真逆の生き方である、「自分でビジネスをする」という生き方を選んだ。

良い大学を卒業して、良い会社に入るというレールに乗った人生を自ら脱線してみた。

それによって、僕の人生、価値観は大きく変わった。

トヨタ時代は

・ルールばかりで、ルールに従うことが全てだった。

・アホな上司の言うことにも素直に従っていた。

・朝6時に起きて、早めに職場に行き、２２時まで残業をして、家でも仕事をしていた。

・いつも金欠でもやしばかり食べていた。

・職場の上司や先輩はいつも夜遅くまで疲れた顔で仕事をして、ため息をついていた。

・年収１０００万になれるのは、早くて３０代後半になってからだった。
・資格を持っていると優遇された。
・職場の人間関係のために行きたくもない飲み会や会社の運動会にも参加していた。
・何の仕事をするにしても、上司とその上の上司まで承認が必要で時間がかかっていた。
・上司から怒られるばかりで自分の仕事がお客さんに喜ばれている実感がなかった。
・事あるごとに、上司からトヨタみたいな恵まれた会社はないんだぞと言われていて、
トヨタを辞めたら地獄に落ちると錯覚していた。

それに対して今は、

・（法律以外の）ルールという概念がなくなった。ルールは他人に決められるものではなく、自分で決めるものになった。

・国内でも海外でも好きな時にどこにでも行けるようになった。

・欲しいものを買うときにいちいち値札を見なくなり、メシ屋や飲み屋で金額を気にせず、好きなだけ頼めるようになった。

・平日の昼間から仲間達とテニスを出来るようになった（この文章を書いている今日も仲間とテニスをした）。

・早起きが消えた。朝１０時ぐらいに起きて、眠くなったら寝るようになった。

・アホな上司が消えた。

・資格の勉強が消えた。資格を持っている人を雇えば良いという価値観になった。

・通勤時間が消えた。ベッドの上や家のデスク、カフェ、旅館が仕事場になった。

・残業が消えた。働くのは週に2日ぐらいになった。
・２９歳の時には年収１９００万になって、収入が会社員時代の４倍近くになった。
・周りの友人は２０代で年収が億を超えている（しかも僕より働いていない）。
・付き合う人は自分が尊敬している人か、面白いと思う人としか付き合わなくなった。
・お客さんから感謝の便りが来ることもあり、自分の仕事が他人の役に立っていると感じるようになった。

同じ人間の人生なのか？というぐらい、
僕の生き方も価値観もたった数年であっさりと変わった。
僕は２０代の中盤に自分の生き方、将来について非常に悩んだ。

人生このままでいいのだろうか？
今の仕事をあと４０年も続けなきゃいけないのか？
憧れだった大企業で実際に働いてみて、期待と現実のギャップに直面し、
現状に違和感を感じていた。
だけど、違和感を感じながらもそれに気づかないようにして、優秀な社員になろうと、
上司や先輩に認められようと必死に努力した。

しかし、あることがきっかけでその違和感はどんどん大きくなり、
僕は自分の人生を見つめ直すようになった。
そして、「自分でビジネスをする」という生き方を選ぶことにした。

今だから断言できるが、人生には明らかに『効率の良いルート』
というものが存在する。

それが就職でもなく、転職でもなく、自分でビジネスをするという生き方だ。

実際に起業してみて、世間一般のイメージと実態には大きく開きがあると感じる。

起業のイメージと実態について、一例を示しておくと、

・起業にはものすごいアイデアが必要→完全なる誤解。すでに世の中にあるもののマネでＯＫ
・起業には才能が必要→才能いらない。学んで練習すればいいだけ。
・起業には人脈が必要→年収数千万のレベルであればマジで全く1ミリもいらない

・起業には資金が必要→資金がいらないビジネスすればＯＫ
・起業には情熱や使命感が必要→1ミリも要らない
・起業はにリスクがある→リスクがないビジネスすればＯＫ
・会社員すら勤まらない人間が起業なんて無理→全く嘘。これは起業したことない人の意見

僕は元々、起業とは全く無縁の人間だった。
先ほども述べたように、起業には資金が必要だし、
成功できるのは一部の才能ある人間で、失敗したらリスクが大きいと思っていた。

大学時代、起業すると言っている同級生に対して、
「起業ねえ・・・」

と冷ややかな視線を送っていた。

せっかく大学に入ったのに、良い会社に行かずに
起業なんて不確実でリスクの高いことをするのはバカだとさえ思っていた。

そんな自分が起業して、逆に起業を勧めるなんて
人生とは面白いものだなあと思う。

もちろん、僕はみんながみんな起業しろなんて思っていない。
だけど、昔の僕のように、

仕事にやりがいや充実感を感じず、

毎日遅くまで残業している疲れた顔をした先輩や上司を見ていたら

自分の２０年後、３０年後の将来に希望が持てなくなった人

お金と時間両方を手に入れて、好きな時間に起きて一日中好きなことをしたり、

仲間と美味しい料理とお酒をお腹いっぱい食べたり、

期限を決めずに好きなだけ旅行に行きたい人

年金問題や会社の将来が不安な人

ルールばかりの会社にうんざりしていて、

組織に適合できずに現状に違和感を感じてる人

会社の運動会と飲み会が無駄すぎて死ぬほどうざい人

一度きりの人生、ネタになるような、

人と違うぶっ飛んだ面白い人生を生きてみたい人、そういう価値観の友人が欲しい人

毎日退屈で夢中になれる何かを探している人

何か目標を決めて頑張りたい人

には、もしかしたら起業という生き方はピッタリかもしれない。

起業の世界は刺激的でめちゃくちゃ面白い。

きちんとやり方さえ学べばお金と時間の両方を得られるので、
自分がやりたいことや興味があることを思いっきり出来る。

僕の場合、読書、海外旅行、ゲーム、漫画、お酒、グルメが好きなので、
好きなことに時間とお金を集中できるようになり、
明らかに人生が濃く、充実するようになった。

僕は人生を楽しくし、効率よく生きるための手段こそが起業と考えている。

起業というと、ものすごいビジネスアイデアを考えて、
投資家から大金を調達して、
まだ誰もやったことのない未知のことに挑戦する
すごく大それたものをイメージするかもしれない。

でも実際は違う。

起業なんて全然大したことない。

僕は今でこそ投資家から８０００万ほどお金を調達して、
お店を１８店舗経営して、たくさんの人を雇用するビジネスを経験したり、
逆に社員を全く雇わずに、一回作りあげれば放置していても
勝手に数千万儲かるビジネスもしてきた。
けど、一番最初に始めたビジネスは友人の家を掃除するビジネスだった。
お代は５００円
しかも僕は友人が少ないから一瞬でそのビジネスは終了した（笑）

でも、初めて自分の力で稼いだお金は会社でもらう給料よりも何百倍も嬉しかったし、
僕は家の掃除でさえも立派な起業だったと思っている。

起業家になるのには資格もいらないし、学歴もいらない。
なろうと思えば今この瞬間にでも起業家になれる。

実際、会社で毎週のように仕事でやらかして、上司にぐちぐちぐちぐち怒られ、
プレゼンが嫌だからとプレゼンがある日は会社を仮病でサボっていた
僕みたいなクソ人間でも、ビジネスを始めて２年後には年収１０００万超えた。

僕以外にも、僕がビジネスを教えた人も

元は会社のストレスで体を壊して、ぶっ倒れたことがあるけど、
今は自分のビジネス一本で生活していて、年収１０００万を超えている。

僕は最初、会社を辞めたくて副業でも始めてみようかなーと軽い気持ちで
ビジネスを学び、気づいたらビジネスの楽しさに取り憑かれてしまった。

世の中には責任感が強すぎて仕事が原因で自ら命を絶ってしまう人もいる。
僕も会社員時代、仕事が辛くて鬱の手前ぐらいになったことがある。
キャパを超えてしまい、常に頭がぼーっとして、何も考えられなくなった。

でも、今こうして元気に人生を楽しめているのは、

自分でビジネスをするという、会社で働く以外の選択肢があったからだ。

本書では、

やりがいのない仕事で毎日が忙しく、

毎日上司に怒られてばかりで

「俺の人生このままでいいのか？」と将来に悩んでいた

資金ゼロ、知識ゼロ、人脈ゼロの落ちこぼれ社員が

どのようにして

お金と時間の両方を手にして、嫌な人間関係からも解放され、

好きな時に好きな場所でやりたいことが思いっきり出来る

人生を手に入れたかを物語で話していこうと思う。

もし、そういった世界に興味があるなら、

そこら辺の自己啓発書よりもよっぽど参考になる自信はある。

僕がやってきたことを真似していただく必要も、

共感していただく必要もないけれど、

この本がきっかけで、

へー世の中にはこういった生き方もあるんだなーと

就職、転職以外の第三の選択肢が生まれて、時間とお金の両方を手に入れたり、

ビジネスって面白そうだなーと

面白い世界に突入する人が一人でも生まれて、

人生が楽しくなる人が増えてくれれば嬉しい。

では、さっそく物語をスタートしよう。

【旅の思い出】オーストラリアのサバンナで撮影した
夜空に広がる満点の星空

はじめに……2
黒魔術に助けを求めていた闇の青春時代……28
大学デビュー計画始動！……40
大学デビュー、早くも失敗？……48
タダ飯がきっかけで就職先が決まる……53
トヨタ入社編……63
無駄無駄無駄無駄！！！……67
うつ病社員が多すぎてビビる……73
俺自身がポンコツ……76
お、お小遣いが1万円・・・？……82
親父とばーちゃんが立て続けに死ぬ……87
夢とか言ってる場合じゃねえ……97
俺の人生このままでいいのか？……101

転職したいけど、やりたいことがない……104
起業との出会い……111
デブでロン毛のおっさん起業家……115
【悲報】出世のチャンス……130
そんな仕事辞めちまえ！……136
辞める方が入るよりも大変……146
世界一周・・・するか。……151
日本での挑戦① 旅好きたちのイベント……157
日本での挑戦② 愛知→北海道に0円ヒッチハイク旅……164
人生変わった人が爆誕する……179
Youtuberを呼んで世界一周出発式……185
世界一周に出発……188
異国の地でストリート書道をして絶望……188

年収1億円の23歳との出会い……193
一億の男に会えるチャンス……202
地味すぎる作業。本当に大丈夫なのか？……225
初収益！！……239
時間とお金を手にした世界……243
ランボルギーニに乗ってみたり色々挑戦……248
落ちこぼれ社員でも自由になれた理由……258
最後に……269
追伸……290

黒魔術に助けを求めていた闇の青春時代

僕は１９８８年、青森県の超がつくほどのド田舎で生まれた。
家の前には畑と林が広がっていて、周りにお店は何もない。
最寄りのコンビニまでは車で１０分、
夏になるとカエルがゲーゲーと泣いていて、
同じ青森県民に言っても知らない人がほとんどの、小さな小さな町だった。
家族はトンネル工事の作業員の父と母、ばーちゃん、知的障害のある妹、
犬一匹の家庭で育った。

小さい頃から僕は運動が大嫌いで、
水の代わりにポカリスエットを飲んでいる超肥満児だった。
太りすぎが深刻で保健所で栄養士さんに栄養指導を受けていたこともある。

栄養士さんに運動しなさいと言われ、実家の食卓テーブルの周りを
２周ぐらい走ってゼーハー言っている根性のない子供だった。

小さい頃から中二病気質で、人と違うことが大好きな子供だった。

６歳の頃は、みんなと同じ黒いランドセルを背負うのがどうしても嫌で、

今みたいにカラーランドセルはない時代だったのだけど、
探しまくって、黄緑色のランドセルを手に入れて背負っていた。

小学校の入学式の服装は紫色のブレザーに白タイツで髪型はキノコカット。

自分ではカッコいいと思っていたんだけど、
そんなキテレツな格好をしているのは町で僕しかいなかったので、
上級生に目をつけられて、しょっちゅうイジメられていた。

この頃の僕は明るい子供だった。
人を笑わせるのが好きで、テレビで見たお笑い芸人のギャグをいつも真似していた。

小さい頃の夢はお笑い芸人だった。

当時は先輩や同級生から

デブなことや、妹に知的障害なことをバカにされたり、

物を壊されたりと、まあまあヒドい扱いを受けていた。

嫌だったし、悲しかったけど、

「これはイジメられてるのではない。お笑い芸人だからいじられているんだ」

と思うことで精神の安定を保っていた。

中学生ぐらいまではまだ良かった。

周りからどんなにヒドい扱いを受けても学校の成績が悪くなかったので、
ま、俺はこいつらより勉強できるしな。
と、心の中で見下すことで自我を保っていた。

しかし、高校生になって事態は変わる。
高校は家からバスで４０分ぐらい離れた自称進学校に通った。

進学校という、勉強ができるのが当たり前の集団に入ったことで、
僕の唯一の取り柄であった、『勉強だけはできる』が取り柄じゃなくなってしまった。

この時の僕は

外見はデブで顔中ニキビだらけで、ゲジゲジ眉毛
内面はネクラでコミュ障で学校の成績も悪かった。
完全にイケてない部類でスクールカーストは最底辺。

コンプレックスだらけで自分に自信が持てなくて暗かったので、
他人からナメられたり、バカにされてばかりだった。

女子とも全然話せなくて、高校３年間で女子と話したのは３回ぐらい。
好きな子と絡むことも出来ず、妄想して好きな子をおかずにオナニーばっかりしていた。
高校１年生の時はクラスの奴らから下人（げにん）というあだ名をつけられたり、

高校２年・３年の時はデブか、
父が無職だったことからニートと呼ばれていて、常に最下層だった。

僕の私物や買ったものは勝手にみんなに使われたり、
勝手に食べられるのが当たり前で
ブチギレたかったけど、でもキレたらハブられるのが怖くて、
いつもヘラヘラごまかしていて、そんな雑魚い自分が大嫌いだった。

自分のメンタルを保つために、相手の悪いところを見つけては、
あ、ここは俺勝ってる。と、わずかな勝ってるポイントを見つけては
相手を見下して、メンタルを保っていた。

そんな1ミリも青春要素のない真っ暗な高校生活を過ごした。
そして、嫌なことは重なり、
高校生あたりから親父が無職になり、家が貧乏になった。
家に帰ると、仕事がなくて無職になってしまった父が
酒を飲んで母親と毎日のようにケンカしていた。

父「いくら使えば気がすむのよ！ああ？！！」
母「だから！！必要だから使ってんじゃないの！！」

毎日怒鳴り合う声や、食器が割れる音が聞こえてきた。
親同士がケンカする姿を見るのは悲しくて胸が痛かった。

最終的に父親は飲酒運転で家を出て行き、母親は
家で一人泣いているという光景がこの時の日常だった。

お金がないと、こんなにも人間関係はギスギスしてしまうのかと思った。

貯金でもあれば、まだ心に余裕があったかもしれないが、
浪費家の母がほとんど貯金を使い果たしてしまっていて、我が家にはお金がなかった。

父の失業保険で食いつないでいたが、家のローンもあったため、生活は苦しかった。

この時は将来への不安感がすごくて、
学校に通うバスの定期券すら買うのがやっとで、

模試を受けたり、修学旅行に行ったり、お金がかかるたびに
両親への罪悪感がハンパじゃなかった。

クラスメイトが雑誌に載っているカッコいいナイキのスニーカーを履いていたり、
おしゃれして彼女とイオンをデートしたり、
学校終わりにゲーセンでイニシャルDという
レーシングゲームをやっているのが楽しそうで。

その時、僕はいつも遠くで羨ましそうに見ているだけだった。

バイトをしたかったけど、バイト禁止の高校だったので
どこのバイト先でも雇えないと言われ、
そもそも田舎すぎて働ける場所がほとんどなかった。

そして、今のように自分でお金を生み出す知識もなかった。

進学校なのでどこかしら大学に行くのが当たり前の雰囲気だったが、

「俺、大学行って大丈夫なのか？」と、常にお金の不安がつきまとっていた。

学校に行くと底辺カーストで地獄、

家に帰っても貧乏＋親のケンカで地獄。

どこに居ても気が休まらなくて、

学校帰りに本屋でヤングジャンプを立ち読みしている時が一番幸せだった。

あまりにも心が病んでいたので

一時期はムカつくクラスメイトを自分の手を汚さずに消せないかと
黒魔術の本（苦笑）を読んだり、
いっそのこと両親を殺して自分も死のうかと本気で考えていた時もあった。
そんな暗黒な青春時代だった。

当時は周りの誰も信用できる人がいなくて、全員敵だった。
生きていても何も楽しくなかった。

しかし、大学に進学し、そんな僕にもある転機が訪れた。

大学デビュー計画始動！

大学は岩手県の大学に進学した。
本当は第一志望の宮城県の大学に行きたかったのだが、勉強についていけず受験失敗。
浪人してリベンジしたかったが、家が貧乏だったので行ける大学の行ける学科に進学した。

お金がなかったので、大学の入学金免除・授業料免除と奨学金をフル活用し、
バイトをしまくって親に負担をかけないように行った。

実家を離れて地元のやつらともおさらばできて、僕は希望を感じていた。
ここでは昔の自分を知っている人がいない。
俺は大学デビューして生まれ変わるのだ。と心に誓った。

大学ではストリートダンスのサークルに入ろうと思った。
わかりやすくいうと、エグザイルみたいなダンスをするサークルだ。

理由は単純、モテたかったからだ。

当時、深夜にやっていたダンス番組で
生まれて初めてダンスを見た。

かっこいい・・・これはモテそうだ。

ダンスでイケイケになったら絶対にモテる。
俺はダンサーになって過去の自分と決別する・・・

そう思い、ダンスサークルが出演する大学の新入生歓迎のイベントを見に行った。

ズンチャ♪ズンチャ♪

ヒップホップ？の音楽に合わせて、イベントではエロい衣装を着たお姉さんや、ダボダボの服を着たイケイケのお兄さんが気持ちよさそうに踊っていた。

かっけえ・・・・

これはモテると確信した。

なんなら、サークルのエロそうなお姉さん達に入部早々に誘惑されて、

エロいことできたらどうしよう・・・
脱童貞じゃんw
くふふw

エロ漫画に脳みそを侵された僕には刺激が強すぎたのか
そんなありもしない妄想をしながらダンスのショーを見ていた。

ショータイムが終わり、
リーダーみたいな人が
「ダンスに興味ある人は僕たちに声かけてくださーい」
とマイクで話していた。

よし、行こう・・・・

僕はパンフレットを握りしめ、リーダーらしき人物に声をかけようとした。

しかし・・・

めちゃめちゃこええ（泣）

怖すぎる。

だってあっちはＮＥＷ ＹＯＲＫって書いた帽子を被り、

ダボダボの服を着た明らかにいかついお兄さんなのだ。

こっちはデブでゲジ眉で地元のイオンで安売りしていた服を全身装備した
コミュ障インキャ。

明らかに自分とは違う人種。
なんならカツアゲされるんじゃないか？かと思い、抵抗が半端じゃなかった。

そうグズグズしているうちに、リーダーらしき人が帰りそうだったので、
僕は勇気を振り絞って声をかけた。

「あ、あのおおおお！！！
す、すみませんんん！！！

ぼくもダンスをしたいんですけど、だ、だ、だいじょうぶでしょうかあ！？」

声がうわずって明らかに不審者になってしまった。

こんなキモいやつがダンスやんの？って思われてないかなとか

色々怖かった。

すると、リーダーは

「あ、サークル入りたい方ですね～大丈夫ですよ～

じゃあ練習日と場所を連絡するので連絡先交換しましょう～」

意外にもすんなり受け入れてくれた。

見た目に反して優しい！！！

こうして、コミュ障インキャだった僕の大学デビュー計画がスタートした。

大学デビュー、早くも失敗？

そんなわけで、僕の大学デビューの第一歩がスタートした。

リズム感もなくて、デブで運動音痴の僕だったが、
なんとか練習についていけるように頑張った。
みるみるうちに痩せて１０キロぐらい体重が落ちてスリムになっていた。

見た目にも気を遣った。
今まではイオンで買った服を着ていたが、バイトしまくってお金を貯めて
先輩達と同じようにヒップホップな服を売っているお店で買うようにした。

イケイケになってカッコよく踊れるようになって、めっちゃモテて、
彼女が出来てウェーイと遊びまくることを妄想していたのだったが・・・

びっくりするほどモテなかった（泣）

見た目は必死にイケてる風を装うんだけど、
中身は根っからのコミュ障インキャなので全然モテなかった。

大学ではクラスのオタクグループとつるみ、
家では涼宮ハルヒやとらドラ！というアニメを見て、

ニコニコ動画のランキングを毎日1位〜１００位までチェックして
シコって疲れて寝るという非リアな生活をしていたので、
モテるわけがなかった。

サークルでは
「え、彼女いたことないの！？やばー！」
と彼女いない歴＝年齢をイジられるので、
カッコつけて女とか興味ねーしというスタンスだった。

けど、本当はめちゃめちゃ興味があって、
気になる子に素直になれずにイジっていたら普通に嫌われた（悲）
別の気になっている子と奇跡的に花火大会に行けた時なんかは

今日はありがとうねメールに思いを込めすぎて、
数千文字のメルマガかよってぐらい超長文で送ってしまい、
キモがられて音信不通になったりと、残念な学生生活を送っていた。

モテないし、家は貧乏で金はないし、

一方で周りの同級生は親から家賃を出してもらって、
その上仕送りももらっていて、
海外旅行行ったーとか、車買って旅行行ったーと言っていて
正直、超羨ましかったし、ムカついた。
（大学生にもなってお小遣いもらってるってなんだよ）

もうこうなったら大学院は今の大学とは違う良い所に進学して、
良い会社に入るしかねえと思った。

そして、猛勉強して大学院に合格した。

タダ飯がきっかけで就職先が決まる

大学院生活はあっという間で、すぐに就職活動の時期が来た。

正直、やりたい仕事なんてなかった。

会社説明会に行って、商社とか金属メーカーとか色んな会社の話を聞いたけれど、自分がその会社で働いているイメージが湧かなかった。

そんな時に転機があった。

「トヨタ自動車のＯＢが大学に来ていて、参加するとタダ飯が食える会があるぞ」と友人に言われた。

「なに！？タダ飯だと！？」

大学院でも相変わらず貧乏でもやしばかり食べていた僕は

タダめしの４文字に反応して、まんまとその会に参加した。

会に行くと、高そうな居酒屋に学生１５人、トヨタ社員４名がいた。

この時、トヨタには１ミリも興味なかった僕だったが、

この会で出会ったＯＢの一人に憧れて

トヨタ自動車に入ろうと決意するのだった。

その人はトヨタ自動車の中でも花形の企画部の人で

プリウスの開発にも携わっていた人だった。

年齢は４０代半ばぐらいで、イケメンな雰囲気のおじさんだった。
面白かったのが、トヨタの宣伝に来ているはずなのに、
仕事の話はせずにコンパの話ばかりしていた。

「トヨタに入ったら、先輩の女子社員とコンパをセッティングしてやる！」
と言われて、
僕は全くクルマに興味がなかったけれど、コンパには興味があったので、
少しだけトヨタが気になった。

大企業の社員はプライドが高くてお堅いイメージがあったけれど、

その先輩はチャラくておもしろかったので、親近感を感じていた。

かと思うと、その人は急に情熱的に

「俺は企画部なんだ！

俺の企画する車では世界一良いクルマを作りたいんだ！！」

と、熱く自分の仕事を語りだして、

コンパの話とのギャップもあって、もの凄くカッコよかった。

「かっけえ。この人みたいなオジさんになりたい」と思った。

僕は小さい頃から親父の影響で
「子供に自分の仕事を自慢できるカッコいい親父になりたい」
という夢があった。

僕の親父はトンネル工事の作業員で、全国に出稼ぎに行ってトンネルを作っていた。
3ヶ月に1回しか家に帰ってこなかったけれど、
帰ってくるたびに僕をドライブに連れて行ってくれて、
自分の作ったトンネルを通ると、
「これがお父さんの作ったトンネルだぞおー！」
と自慢してきた。

子供ながらに「父ちゃんかっけえ」と興奮した。

「父ちゃんはいつも家にいないけれど、こんなにたくさんの人が通るトンネルを作っていたのかあ。

めちゃめちゃ人の役に立ってるじゃん」

僕はそんな親父を尊敬していたので、

自分も将来子供に自慢できる仕事をしたいと思っていた。

トヨタなら自分が携わったクルマを

「あれが父ちゃんが開発したクルマだぞー！」

と子供に自慢できる。

熱く仕事を語る先輩が親父の姿と重なって、

この人みたいになりたいと思った。

それに、トヨタなら年収１０００万になって金持ちになれる。

僕はもうお金で苦労する人生は嫌だった。

貧乏だと家族関係もケンカばかりで最悪になる。

お金が理由で何もできなくなる。

よその家庭への劣等感も半端ないし、子供に好きなこともさせられない。
貧乏で良いことなんて何もない。
絶対に絶対にお金で苦労する人生は嫌だった。

だからバリバリ稼いで金持ちになりたかった。

そう思っていた僕にとって
トヨタは夢と現実を両方兼ね備えた最高の会社に感じた。

この飲み会から僕の志望先はトヨタ自動車一択になった。
一応、他の自動車会社も見てみたけど、僕にはトヨタ社員の方が

生き生きしていて、イケてるように見えた。
ますます絶対ここに入りたいと思った。

タダ飯から始まったトヨタとの出会いだったけれど、
気合だけは本物だったので頑張った。

志望理由書は色んな人に添削してもらいながら何度も修正を重ね、
面接練習はデジカメに向かって一人で話しかけ、その様子を撮影しまくった。
話してる時の視線がキョロキョロしててキモすぎたけど、
何度も練習しまくったら練習の甲斐あってちょっとはマシになった。

そして合格し、僕は晴れてトヨタ自動車に入社できることになった。

トヨタ入社編

２０１３年４月１日、トヨタ自動車の入社式。

会場には大卒の同期が５５０名、現場採用の人も合わせると、１３００名が会場にいて、

あまりの人の量に僕は圧倒された。

これがトヨタか・・・

僕は燃えていた。

この会社でのし上がって、あのＯＢの人と同じ企画部に行く。
自分の企画したクルマを世に出して、将来の子供に自慢する。

そして金持ちになる！モテる！

会社の寮は家賃五千円の古くて汚い４畳半のボロ寮だった。
部屋は狭いし、洗面所は汚いし、自炊もできないし、風呂は共同で正直嫌だった。

けど、これから俺は成り上がるわけだから、
むしろボロ寮の方が後でネタになると当時はポジティブに捉えていた。

しかし、現実はそう上手くはいかなかった。

【４畳半の会社の寮】キッチンなし、風呂と台所は共用
今は老朽化で取り壊されて無いらしい。

無駄無駄無駄無駄無駄！！！

働いてみて気づくことがたくさんあった。
とにかく、無駄な仕事が多すぎる！！！

この報告、俺と関係ある？という内容の意味のない会議に
「とりあえず出て」と出席させられ、
1時間まるまる会議に使い、何かあれば上司に報告報告。
報告の資料も些細な内容でケチをつけられ、修正に次ぐ修正。

何の仕事をするにも先輩社員と上司とさらに上の上司の３つのハンコを貰う必要があり、
途中でコケるとまた振り出しに戻り資料の作り直し。

基本的に資料作成が仕事で１日が終わり、
「俺はクルマじゃなく、資料を作るために仕事してるんじゃないか？」
と、思うようになり、何のために仕事をしているのか分からなくなった。

上司は残業時間を減らせというくせに、
どんどん仕事は振ってくるので残業時間は減るどころか増える一方。

忙しい時は週１０レベルで働いていた。
１度目の出勤は朝８時、２度目の出勤は２２時半。
２度目の出勤は家で仕事をする時間だった。

会社にバレないように資料を持ち帰って
家で作業して、会社のメールアドレスに家からデータを送っていた。
基本的に残業残業で平日は会社に行く以外何もできない。

で、仕事を持ち帰っていると、残業時間は減らせるのだが、
「ああ、まだ余裕ありそうだね？」とアホ上司がさらに仕事を振ってくるのだった。

残業を減らせというくせに、帰ろうとすると、
「もう帰るのかね？帰って大丈夫なのかね？」と言われるので、
いや、どっちやねん！！と思いながらも、
上司が離席したタイミングを狙ってコソコソと帰っていた。

上司は言ってることがコロコロ変わるし、
絶対それ意味ないだろっていう、トンチンカンな指示ばかりで
尊敬できるポイントが1つもなかった。

自分が指示した仕事なのに、上からそれ意味ないでしょって、
指摘をされると、自分がやれと指示したのに一緒に僕を責めてきたときは、

理不尽すぎてこの人は人間としてもクソだなと思った。

休日は休日で、月に1回ペースで

会社の運動会やら何かしらのイベントがあって、

せっかくの休みが削られるし。

運動会に参加しないと上司からの印象が悪くなるし、

誰が会社の運動会なんか参加したいんだと疑問でしょうがなかった。

昼休みは会社の労働組合の集まりが定期的にあって、

休み時間が潰されるのが超腹立つし、

労働組合が推している政治家に投票しようね的なことを
言われたり、ちゃんと選挙に行ったかまでチェックされる。

仕事ならともかく、プライベートの時間もどんどん侵食されていって、
どうでも良いことが多過ぎた。

そして、会社の飲み会に行くと、周りも会社や上司の愚痴ばかりで、
それで二次会、三次会も行くので生産性が1ミリもなかった。
会社の中でも外でも、どうでも良い
無駄無駄無駄！なことが多すぎて、疑問に思うことばかりだった。

うつ病社員が多すぎてビビる

とまあ、新人の僕ですらこんな状態なので、上司を含む先輩方はもっと大変そうだった。
遅くまで残ってため息をつきながら仕事をしていて、全く人生楽しそうじゃない。
家に帰る頃には深夜で子供が寝ていて、
朝は子供が学校に行くより早く朝の６時くらいに家を出ている人もいた。

楽しくないだけならまだしも、職場ではうつ病でバタバタと人が消え、
消えては戻ってくるのを繰り返しているのだった。

僕の教育担当だった先輩社員も僕が配属されてすぐに、
うつになってしまい、３ヶ月ほど休職していた。

おいおい、大丈夫かよこの職場・・・

１０年後、２０年後、自分もこうなるんじゃないか？
そう思うと、危機感が半端じゃかった。

基本的にクルマの開発というのは、新しいことに挑戦するので、
答えのない未知なことへの挑戦だ。

学校の問題のように正解があれば良いが、

実験しても実験しても上手くいかず、目標値を達成できないことがある。

だけど、開発の締め切りは待ってくれない。

結果を出さなくては間に合わない。

しかもそれが1車種だけなら良いが、同時に何車種も担当するので、

未知の問題が同時に降りかかってきて、

上司からもプレッシャーをかけられるので頭が狂いそうになる。

そんなプレッシャーの中、仕事は片付けても片付けても終わらないし、

会社は無駄だらけだし、苦しそうな人ばかりだった。

俺自身がポンコツ

こんな風に周りのせいにばかりしているけれど、
僕自身にも問題はあった。
僕自身がポンコツで落ちこぼれのカス社員だった。

プレゼンが下手すぎて、上司と同期の前で発表した時は、
「あああ、あのおおお、ええええっと・・・」しか言えずに
周りから冷ややかな目で見られて上司から怒られていたこともあったし、

会議で上司から質問されると、「あのー・・・それはですね・・・」と資料を探すふりをして、
いつも時間切れまで粘っていた。

大学生の時にちゃんと勉強をしていなかったので、
物理の話など専門的な話題に全然ついていけず、
大人数で集まる会議に参加した時は
バレないようにしょっちゅう居眠りをしていた。

仕事が追いつかずに、会社のパソコンを家に持ち帰っても
結局やらずに寝てしまうこともあったし、
朝早く起きてやろうと思って、結局早起きできずに寝てしまって、

うわー最悪だ・・・と自己嫌悪を感じていた。

家で発砲酒を飲みながら仕事していたら、
眠くなって途中で寝てしまうこともあって
いつも仕事は納期ギリギリか期限遅れ。

資料が間に合わない時は、重要な会議を仮病でズル休みして
凌いでいたこともあった。

同期はみんな優秀だし、明らかに僕より仕事を頑張っているんだけど、
そんな同期のことを僕は

あいつはここがイマイチだと
同期の悪いところを見つけてはケチをつけて自尊心を保っている
カス野郎だった。

「会社の同期はみんな真面目で面白くないから関わりたくねー」
と見下しして、同期を遠ざけて仕事以外では
出来るだけ関わらないようにしていた。

そして、プライベートではタワマンパーティーなど、
金持ちそうな人がいる空間に身を置いて、社外の友達を作るようにした。

当時の僕は

「俺は同期の奴らとはちげーんだ」と

選民思想に浸っている中二病みたいな痛いヤツだった。

今思うとこれは結局逃げだったのだ。

周りの高学歴で優秀な同期と関わると、自分が仕事ができないことや

自分のだらしなさと向き合わなくてはいけないので、

相手をディスって遠ざけることで、逃げていただけなのだ。

俺はまだ本気出してないだけ。本気出せばいつでもいける。

と、心のどこかで思っていて、

けど、自分がサボっている間に、

周りの人は愚直に仕事をして上司から一目置かれる存在になっているのを見て

内心焦っていたし、辛かった。

お、お小遣いが1万円・・・？

で、自分にも会社にも違和感を感じまくっていた時に、衝撃的な事実が発覚する。

「え！？お小遣い1ヶ月1万円なんですか！？」

年収９００万円近くある先輩社員のお小遣いが1ヶ月1万円だというのだ。

会社の飲み会に参加するときは、

奥さんに申請して飲み代をもらわないといけないらしい。

これには衝撃を受けた。

自分で稼いだ金なのに好きに使えないのかよ・・・

入社する前にイメージしていた、

バリバリ仕事をして、バリバリ稼いで好きなことに金を使う

大企業の社員像とは全くかけ離れていた。

トヨタ社員なのに全然金持ちじゃねえ・・・・

クルマのローンと家のローンで家計が圧迫されているので

お金に余裕がないらしい。

お小遣い1万円という話を聞いて、なんのために生きているんだ？
という気持ちになった。
ローンを払って嫁と子供を食べさせるために生きなきゃいけないのか？

トヨタでは早いうちに結婚して、
マイホームを建てるのが当たり前という風潮がある。

なるべく早く結婚して子供を作らせて
住宅ローンでガチガチに縛ってしまえば、
会社を辞められないから離職率を抑えられるからだ。

なので、早く結婚して子供を作って、家を建てようぜ。
そしたら老後になる頃には子供も成人してて楽だぜ。
という価値観が先輩から後輩へと代々受け継がれている。

しかし、現実問題、そのマイホームを買ったおかげで
ローンを返すためにせっせと働き、自由に使えるお金がなくなり、
うつ病になってもローンがあるから会社を辞められない、住む場所を変えられない。
という人が結構いた。

せっかく良い家を建てたって、どうせ仕事が忙しいのだから、
寝るためだけに帰るようなものだ。

なのに、結婚とマイホーム購入をしつこく勧めてくる
先輩たちが宗教の勧誘のようで気持ち悪かった。

こうして、僕の中でどんどん現状への違和感が大きくなっていった。
そんな時に人生の転機となる、ある事件が起こった。

親父とばーちゃんが立て続けに死ぬ

現状に違和感をバリバリと感じまくっていた時に事件は起こった。

会社員1年目に親父が、そして2年めにはばーちゃんが立て続けに亡くなったのだった。

父ちゃんは脳出血、ばーちゃんは心臓マヒだった。

二人とも前触れもなく、突然すぎるほど突然で、

もっと親孝行、ばーちゃん孝行しておけば良かったと死ぬほど後悔した。

そして、一番ショックだったのが、親父はお金がなくて

病院に行くのを我慢して死んだ。
と後になって知ったことだ。

工事現場で肉体労働をしていて、体がボロボロだった親父は
身体中が痛くて夜も眠れなかったそうだ。
しかし、中卒だし、肉体労働しかできない。
貯蓄もないし、家のローンもあるから動かない体を酷使して働いていたらしい。

で、病院で治療するとなると結構なお金がかかる。
だから病院には行きたくない。だけど、身体中が痛くて眠れない。
なので、安い焼酎を大量に飲んで寝落ちすることで痛みをごまかしていた。

肝臓はボロボロで検査をすると異常値が出た。
医者から緊急入院させられることもあったらしい。

でも、お金がないので「もう大丈夫だ」と
全く大丈夫じゃないのに即行で退院していたらしい。

体が痛いせいで、痛みを紛らわすためにどんどん酒の量が増えて、
アルコール中毒になり、昼も夜も酒を飲むようになって
突然暴れたり、家の床でおしっこを漏らすこともあったと
親父と同居していた親戚に聞かされた。

まともな食事もとらずに酒ばかり飲んで、血管はボロボロ。

最終的に脳の血管が破裂して、死に至ったらしい。

死ぬ1週間前、

「お父さんになんとかお酒をやめるよう言ってちょうだい！」

と親戚から言われて、親父と電話した。

親戚に言われるまで、そんなことになっているなんて知らなかった。

親父が俺には心配をかけたくないから絶対に言うな。と口止めしていたらしい。

そんなヒドイ状態になりながらも俺に心配かけさせたくないと思ってくれた親父の気遣い、
そんなヒドイ状態だったことを気づけなかった自分の情けなさや、悲しさと
色んなものが入り混じって、
電話中、涙が止まらなかった。

「俺はまだ父さんに全然親孝行できてないよ・・・
このままじゃ長生きできないよ・・・
まだ孫の顔も見せられてないし。長生きして欲しいんだよ。
だから、頼むよ・・・。お酒をやめて欲しい」

昔は恥ずかしくて親父に素直に気持ちを伝えることがなかった。

でも、この時は恥ずかしさも何もなかった。

とにかく、親父に酒をやめて健康になって欲しい。

長生きして欲しかった。

親父は一人息子の俺が大好きだから、今にも泣きそうな声で素直に

「わかった、わかったよ」

と言ってくれた。

そして、本当にお酒を我慢していたと、父と同居していた親戚から聞かされた。

アル中の人間が酒を我慢するのがどれだけ地獄だっただろうか。

でも、親父は俺との約束だからと守ってくれたらしい。

しかし、その1週間後、親父が洗面所で倒れているのが発見された。

即座に地元の病院に運ばれたが、田舎の病院では対応できず、県立病院に運ばれ、

倒れてから5時間後に亡くなってしまったらしい。

僕が大量の着信と留守番電話に気づいたのは、親父が倒れた2時間後だった。

会社の中には携帯電話を持ち込めないので、休憩時間に携帯を見た時だった。

慌てて上司に事情を話し、愛知県から新幹線で向かったが、
その途中で親父は亡くなってしまった。

ああ、また金だ。

せっかくこれから親孝行しようと思っていたのに。

６０過ぎなのに、僕が大学院を卒業するまでずっと工事現場で働いてくれて。
金がないから安い賃金で過酷な労働条件でも働き続けてくれて。
金がないから病気でも病院に行くことすら出来なかった。

金がないせいで、金があったら絶対しない苦労をしたのだ。

金があれば、親父は病院に行けた。

金があれば、良い治療を受けられた。

金があれば、健康診断を受けて、もっと早くから対処できた。

金があれば、無理矢理にでも入院させられることもできた。

金のことで俺に心配をかけさせたくないから親父はずっと俺に黙っていた。

僕は心の底から金がない自分が悔しかった。

金がないことは悪だ。

金がないと不幸になる。

金があったら親父はこんなに早く死ななかったはずだ。

夢とか言ってる場合じゃねえ

入社したての頃は夢があった。

自分が企画したクルマを世の中に出したかった。

自分の生きた証を残したかった。

だけど、夢とか以前にお金や自由な時間の方が大事だし、

自分はこの会社でやっていける自信がなかった。

もう、会社2年目ぐらいには入社当初の情熱は消えていた。

結局、夢だと思っていたけれど、僕にとってはその程度のものだったのだ。

この時の僕にとっては、

夢よりもお金や時間の方が重要だし、会社でしんどい思いをしたくないし、

旅したいし、カッコいいクルマに乗りたいし、オシャレしたいし、

女にモテることの方が重要だった。

今なら分かるのだが、立派な夢を掲げたとしても

自分自身がそれを実現できる実力を身につけてなかったり、

精神的にある程度満たされていないと

何かのきっかけで簡単に折れてしまう。

例えば、立派な夢を持っても、明日食べるご飯に困るほどお金に困っていたり、
人間関係のいざこざなど関係ないことばかりに時間を取られていると、
生きることに必死で夢どころじゃなくなってしまう。

人には段階があって、まずは自分自身の問題（お金、時間、健康、人間関係など）を
ある程度解決して、そこそこ満たされた状態を確保しないと、
ちょっとしたきっかけで現実に夢を潰されてしまう。

この時の僕はお金もないし、現状に不満だらけだし、毎日嫌だ嫌だと仕事に行っていて、
何も満たされていなかった。

だから簡単に折れやすい状態だった。

もし、何かを成し遂げたいならば、

まずは自分が精神的に満たされた状態を作るべきだと今は思う。

俺の人生このままでいいのか？

立て続けに起こった家族の死から、
ずっと感じていた疑問が確信に変わった。

俺の人生このままでいいのか？

一度きりの人生なのに、充実感のない環境であと４０年も働き続けること。
クソ田舎の狭い世界で貴重な２０代を退屈しながら生き続けること。
先輩や上司みたいに、ため息をつきながら働いたり、

飲み会では会社の愚痴でしか盛り上がれないこと。
節約のために、自分で稼いだお金を好きに使えないこと。
お金がないせいで悩まされること。

全てが嫌だった。

そして、一番嫌だったのは、
「嫌だ、いつか辞める」と言いながらも
結局辞められずに精神を病んだり、ストレスで病気になって。、
死ぬ前に
「ああ、あの時会社を辞めていたら、もっと違う人生だったのかなあ」

と、後悔すること。

これが絶対に嫌だった。

トヨタを辞めよう。

僕は決意した。

転職したいけど、やりたいことがない

トヨタで働いていみて分かったのは
自分がそこまで自動車開発に情熱がないことだった。
乗るのは楽しいけれど、クルマを作るという行為にそこまで情熱はなかった。

興味を持てるように、いろいろ勉強もしてみたけど、
クルマオタクの同期達がマニアックな話題で盛り上がっていても、
あまり楽しいと思えなかった。

なので転職するなら自動車以外の業界にしようと思った。

既にトヨタを辞めて転職した同期から聞くと、

全く違う業界でも採用してもらえるのは２０代まで。

それを超えると厳しくなるらしい。

２９歳までに会社を辞めようと決めた。

あと４年だった。

年が経つほど、「あれ！？もう一年終わりか！？」と思うようになった。

１年経つのが早くなっている。４年なんてあっという間だ。

急がなくては。

そこから僕はトヨタ以外の道を模索し始めた。

転職サイトに登録したり、適職診断みたいなのを受けてみたり、
強み分析をしてみたけれど、全くピンとくる仕事がなかった。

じゃあ、リアルでいろんな生き方を見てみようと思い、
異業種交流会に行ったり、気になる人にＳＮＳでアポをとって会ったりして、
話を聞いてみた。

だけど、いまいちやりたいと思える仕事がなかったし、
仲良くなったと思うと、
そういう人はネットワークビジネスの勧誘だったり、
詐欺みたいな投資案件の誘い目的だった。

結局、転職は運ゲーだと思った。
どこの会社に転職しても、部署によって仕事が違うので、
「入ってみたけどやっぱり違った」ということはあるし、
職場の雰囲気や人間関係も実際に入ってみないと分からないからだ。

それに転職したとして、給料が下がる場合がほとんどだし、
給料が高い会社は今以上に忙しいことが分かった。

そういった話を聞けば聞くほど、分からなくなった。

「給料が高くて楽な仕事が良いけど、それさえ満たせばなんでも良いのか？
俺は何がしたいんだ？」

答えが出ずに、悶々とした日々が続き、３ヶ月が過ぎていた。
この時が一番苦しかった。

辞めると決めているのに今の仕事にモチベーションは湧かないし、
自分が何をしたいのか分からず、いつまで経っても次の目標が決まらない。

停滞してる感が半端じゃなくて、焦りを感じた。

もしかしたら、このまま何も変わらずに、３０歳、４０歳と時間が過ぎ、
あっという間に定年になるのでは？

不安だった。

でも、焦るだけでどうしたら良いかは分からないま

時間だけが過ぎていった。

そんな時だった。起業の世界に出会ったのは。

起業との出会い

たまたまフェイスブックを見ていたら、広告が流れてきた。

「副業からスタートして、将来は独立しませんか？」

なんだこれ？

見ると、名古屋の起業塾で副業セミナーをやっているらしい。

副業例に、ガチャガチャを使って月収１０万円、

エアービーアンドビーを使って、月収３０万円など

色んな副業の事例が載っていた。

へー副業かー。

起業とかは無理だけど、副業ぐらいだったらアリかもなー。

もし上手くいったらそれで独立できるかもしれんし。

自分の興味あることをやってお金稼げたら楽しそうだなー。

めちゃめちゃ興味が湧いた。

でも、２５万ぐらいする高額なセミナーだったので、

「俺にできるのか？」と思い、不安があった。

「うーん、うーん」

詐欺だったらどうしよう。

儲からなかったらどうしよう。

副業禁止なのに副業が会社にバレたらどうしよう。

でも、やってみたい・・・

1週間ぐらい副業セミナーのことが頭にはなれず、どうしようか悩んだ。

めちゃめちゃ悩んだけど、

どれだけ悩んでも受けてみないと答えがでないし、
今の状態がずっと続くぐらいなら、何か行動してみたほうがマシだ。
やらないで後悔するより、やってみて後悔だ。

と思い、えいやと申し込んだ。

結論から言うと、この副業セミナーがきっかけで
僕は起業家という生き方をしようと決意する。

デブでロン毛のおっさん起業家

副業セミナーの冒頭、４０歳半ばのデブでロン毛のうさんくさいおっさんが出てきた。

今考えると超絶怪しいのだが、

当時の俺はピュアで、変わった人だなあ。ぐらいにしか思っていなかった。

そして、そのロン毛おっさんが発した一言で

僕は起業の世界に魅せられていった。

「起業家とは、お客さんの悩みを解決して、
どんな時代、どんな場所、どんな状況でもお金を生み出せる錬金術師です。
これからみなさんには錬金術師になってもらいます」

・・・へ？

え？なに？

あなた今錬金術師っておっしゃいました？？

えーあなた今何歳ですか？

いい年こいて中二病感ハンパなくないですか？

けど・・・

もし本当に錬金術師になれたら・・・

かっこいいかも・・・？

僕は起業の世界に興味を持った。

自分でビジネスが作れたら世界中どこにいたってお金を生み出して
豊かに生きていけるのか。
よく考えたらその能力最強じゃないか？

会社で何十年も一つの仕事に縛られなくてもいいわけだし、
その時その時でやりたい事を仕事にできる。

最高の生き方なんじゃないか？

でも・・・起業はリスクが高いんじゃないか？
起業は人を雇ったり、失敗したら借金まみれになるんじゃないか？
そう思った。

けど、学んでいくと実際は違った。
やり方さえ工夫すればノーリスクで出来ることが分かった。

例えば、家庭の不用品を無料で回収してヤフオクで販売して、
月１００万円以上稼いでいる人だっているし、
ネットで自分のスキルや知識を売っている人や、

他人の愚痴を聞くだけで１回１０００円稼いでる人もいた。

あとは、商品を持っている人と提携して、

成果報酬型で売れた時に報酬をもらうとか。

やり方さえ工夫すれば、ノーリスクで出来る方法はたくさんあった。

真っ暗闇だった僕の会社生活にひとすじの希望の光が差し込んで、

新しい世界が開けた気がした。

僕はそれからビジネスの勉強にどハマりした。

ビジネスの世界はめちゃめちゃ面白かった。

仕事で使う物理の勉強は記号ばかりで意味がわからないし、つまらないが、
ビジネスの勉強は心理学やセールスなど
実生活でも役立つ感じがあって、学んでいるだけでウキウキした。

あとは、当たり前だけど、自分でビジネスをやる視点で考えたら
そりゃサラリーマンでいる限り、時間とお金の両方を手にするのは
構造的に無理だということが分かった。

サラリーマンは自分の働く時間と引き換えに会社からお金をもらっているわけだから、
たくさんお金をもらいたければ、時間を犠牲にして長時間働かないといけないし、
時間が欲しければ、その分収入が減ってしまう。

だけど、自分でビジネスする人は、時間給で働いているわけじゃないから、
時間とお金、両方手に入る。

例えば1万円儲かる商品をネットショップとかに置いて、
1ヶ月に30個売れてしまえば、その間好きなだけ寝たって漫画読んでたって
ゲームしたって生きていけるわけだ。

そういった収入の柱をいくつも作っておけば、
1つがダメになっても別でカバーできるわけだから、
逆に会社員より起業した方がむしろリスクが低いんじゃね？とも思った。

会社で時間給でこき使われて、収入源が1つに依存してるほうがヤバくないか？

ビジネスを勉強するようになってからは、

大企業＝最強という価値観から、

起業＝最強という価値観に変わっていった。

よし！

２９歳までにビジネスで会社の給料ぐらい稼げるようになって会社を辞めよう！！！

僕は目標を立てた。

それまでやりたいことがなくて、うーんうーんと悩みながら、
毎日ゾンビのように働いていたけれど、
ビジネスのおかげで希望が生まれた。

もの凄く嬉しかった。

会社の昼休み、家に帰ったあと、週末。
時間さえあれば勉強するようになり、毎日が充実し始めた。
朝の6時まで勉強して、そのまま寝ずに会社行ったりもしていたけど、
充実感がものすごかった。
楽しかったので全然苦じゃなかった。

とりあえず、なんでも良いから早く自分の力で稼いでみろと起業セミナーの講師に言われた。

何かしなきゃと思い、一番最初は友達の家の掃除をした。

報酬は５００円。

しょぼいけど、めちゃめちゃ嬉しかった。

会社の給料とは別で、自分で考えて行動して稼いだお金だ。

友達にもめちゃめちゃ喜ばれた。

よっしゃー！

これで第一歩を踏み出したぞー！

些細なことなんだけど、一つ一つが新鮮で楽しかった。

その後も色々挑戦してみた。

セミナーに参加して、学んだ内容をわかりやすくまとめたレポートを販売したり、

iphoneの転売、ヤフオクで不用品販売、コンサルティングなどなど。

もちろん中には失敗したものもある。

例えば、お金持ちを相手にビジネスしたいなーと思い、

お金持ちの悩みを収拾しようと思い、悩み買い取りチラシという

くそ怪しいチラシを名古屋の高級住宅街にポスティングしたこともある。
ビビりながら恐る恐るポスティングしてみたけど、
全く無反応で大失敗だったことあある。

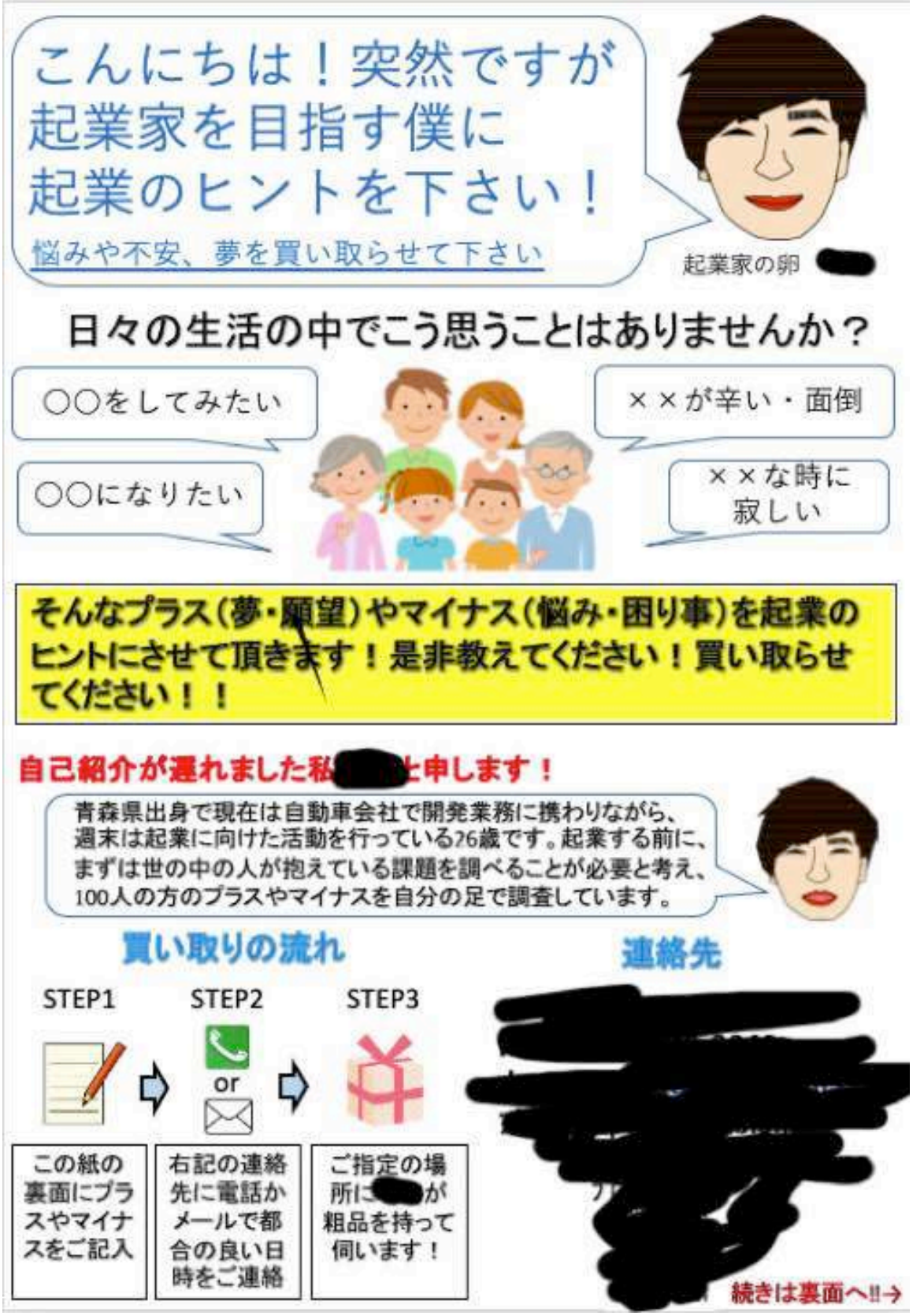
クリックしてるだけで月３０万稼げるという誘い文句にのせられて、
アマゾンの転売ツールを買わされて、
３０万ぐらい損してめちゃくちゃ悔しかったこともある。

稼げたり失敗したり、ビビりながらも
色んなビジネスネタに挑戦してみた。

で、そんなことをやっていたら、
ビジネスを始めて２ヶ月後には月収２３万円、
３ヶ月後には月収４０万円ほどになった。

あれ？意外とすぐ会社辞めれるんじゃね？
この収益をもっと安定化するために頑張るぞ！！

そう意気込んでいた矢先、僕の生活に暗雲がたちこめた。



【写真】名古屋の高級住宅街でポスティングした
くそ怪しいチラシ

【悲報】出世のチャンス

え・・・？

新しいプロジェクトですか・・・？

今やっているプロジェクトの他に、

さらに死ぬほど重いプロジェクトが追加になった。

これまでの業務に革命をもたらす、もの凄いプロジェクトらしく、

成功させたらもの凄い功績だと言われた。

いや、知らんがな！

今でも限界なのに、もう仕事増やさないでくれ！

俺はあと4年で辞めるんだよ！

心の中で叫んだ。

やばい、無理だ。

ビジネスをやるために、仕事を頑張ってビジネスの時間を確保しているのに、

これ以上仕事が増えたらそれどころではない。

そして嫌な予感は的中した。
そのプロジェクトは知識も経験もないゼロから学ばないといけない分野だったので、
会社にいる時間だけでは全く足りなかった。

それまでやっていた仕事だけでもギリギリだったのに、そこからさらにやることが増えて、
仕事は持ち帰り、休日出勤をしても終わらなかった。

当然ビジネスどころではなかった。
昼休み、家に帰ってから、土日。
今までビジネスに当ててていた時間を
全て費やしても仕事が追いつかなかった。

超苦痛だった。

こんなことやってる場合じゃねぇのに・・・

一つ一つの仕事が重くて考えることが多すぎるし、ミスが増えて上司に怒られるしで、ストレスが半端じゃなくて、この時は本当に限界だった。

常に頭がボーッとしていて何も考えられないし、

寝ていると

「ゔ　ゔ　ゔ　ゔ　ゔ　ゔううう」

と自分のうめき声で目がさめた。

こんな状態が２ヶ月以上続いた。

この時期はいつも憂鬱な気分だし、全てにおいてやる気が起きなくて、

鬱の初期症状みたいな状態だった。

もう辞めたい・・・・

何もポジティブなことが考えられなくて、限界だった。

信頼している知り合いの経営者さんに相談してみた。

そしたら意外な答えが返ってきた。

そんな仕事辞めちまえ！

「はぁ！？

そんな仕事辞めてしまえ！！！」

開口一番そう言われた。

意外だった。

甘ったれんじゃねー的なことを言われて

怒られるんじゃないかと思っていたからだ。

「お前の幸せが一番だろ！！！？
お前が不幸になると、お前だけじゃなく、周りの人間みんな不幸になるんだぞ！？

ストレスが溜まって、友達、親、未来の嫁さんに
聞きたくもない会社の愚痴を撒き散らしてみろ。
お前の大嫌いな飲み会で愚痴ばっかりの先輩たちと一緒になるぞ！

いいか？
不幸な人間というのは周りにも不幸を伝染させるんだ。
だから幸せにならなきゃダメだ。

今のお前は会社にいるより、辞めて自分のやりたいことを
やった方が幸せになれそうなんだろ？
だったら辞めて良いんだよ。
逃げじゃない。戦略的撤退！

どうせ辞めたら周りに迷惑がかかるとか思っているんだろ？
全然そんなことねーから！

そりゃ短期的には迷惑かもしれないけど、
嫌だ嫌だと不満を言いながら、生産性が低い人間が働き続ける方が
職場にも、会社にも、社会全体にも迷惑だと思わねーか？

辞めていいんだよ。なんの問題もない！

冷たいかもしんねーけど、経営者からしたら、お前の代わりなんていくらでもいるから！

特に大企業なんて人は沢山いるから、代わりを補充すれば良いだけ！

お前の代わりがいないほどお前が重要な人物だったら、

待遇も給料も今より何倍も良いはずだしな！！笑」

冗談ぽく言ってるけど、

たしかにと思わされて、心に響くことばかりだった。

続けてその経営者さんはこう言った。

「あとな、ほとんどの人はトヨタを辞めるって言ったら

えー！？トヨタを辞めるなんてもったいない！！

考え直した方が良いよ！

って言うだろう？

でもそいつらはトヨタを辞めたら自分はそれより上に行けないって思ってる

弱いやつらだから、そんなやつの言うことは気にすんな。

お前はトヨタにいる時よりも上に行きたいから辞めるんだろ？
なら、もったいなくもなんともねーから。

ということで、辞めろ！
そこで無理に頑張る必要ねーから！
明日には辞めるって言っちゃえ！笑」

僕は泣きながら「はい、はい・・・」と言っていた。
ここまで全面的に応援してくれとは思わなくて、
優しい言葉に涙が出た。

俺は何を頑張ろうとしていたんだ。

自分でビジネスをしたかったのに、いつの間にかやりたいことを犠牲にしながら
やりたくないことを無理して頑張っていた。

そうか、頑張らなくてもいいのか。

次に母に相談した。

母の答えも意外だった。

「お母さんは、あんたが元気で生きているのが一番。
無理に会社で働いて鬱にでもなったらそっちの方が悲しいわ。
あんたの人生なんだからやりたいようにやりなさい」

前に自分の息子がトヨタに入ったと親戚に自慢げに話していたので、
悲しむかと思ったけれど、母も応援してくれた。

ありがたかった。
こんなに優しい人たちに恵まれているなんて、俺は幸せ者だと思った。

辞めよう。

もちろん辞めるのは怖い。

辞めてどうなるかも分からない。

だけど、失敗するなら早い方が良い。

もし失敗したら、今よりも忙しくない会社に再就職して、

また副業でビジネスをすれば良いんだ。

挑戦してみよう。

ずっと踏ん切りがつかなかったが、

勇気をもらって僕は会社を辞めることにした。

辞める方が入るよりも大変

次の日、

「会社を辞めさせてください」

と上司に伝えた。

「は？」

上司は目を丸くして驚いていた。

そこからが大変で上司と先輩達の鬼の説得が始まった。

「辞めてどうする？今忙しいから、ちょっと疲れてるだけなんだろ？」

「俺もそういう時期があったよ。
でも大丈夫。きっと乗り越えられるって。
それに起業するならもう少しトヨタで修行を積んでも遅くはないんじゃないか？」

「起業？あと5年は早いな
トヨタでやっていけないやつが起業して上手くいくわけないだろ」

自分でビジネスしたこともない人間が

なぜ起業について語るんだろうと不思議に思った。

毎日のように打ち合わせを設定されて、

いろんな先輩からいろんな切り口で説得された。

疲れて頭がおかしくなったと思われたらしく、

社内の心理カウンセラーの診断を受けて来いと上司に言われたが、

カウンセラーの方からは

「頑張ってください！私からも上司さんを説得しておきます！応援してますよ！」

とむしろ応援された 笑

そんなこんなで面談が1ヶ月ほど続き、
職場先輩、上司、その上の上司、そのまた上の上司とも話して
3年目の3月末でトヨタを辞めた。

いやあ、大変だった。
辞めるのがこんなに大変だとは思いもしなかった。

でも、さすが大企業。
手続きは非常に簡単で、ドラマみたいに辞表を書くのかと思ったら、
社内のシステムでカチカチッと申請するだけ。

３分ほどで僕の３年間の会社生活は幕を閉じた。

世界一周・・・するか。

さて、晴れて自由の身になったものの、
何のビジネスをして生きていくかは決まっていなかった。

とにかく俺は自分で稼ぐ力を身に付けたい。
会社に頼らずに、世界中のどこにいてもお金を生み出せる力が欲しい。

世界中のどこでもお金を生み出す力かあ。
世界一周・・・するか。

ふと世界一周をしながらビジネスできないか？と思った。
期限を気にせずフラフラと旅をする生活にずっと憧れていたからだ。
僕は社会人2年目、生まれてはじめて海外をひとり旅した時のことを思い出した。
旅先で出会った旅人達は
「ここ気に入ったから1週間延長しようかなー」
「あ、あそこ気になってたんですよー、一緒に行きましょうー！」

こんなノリで気の向くままに旅をしていて、とても自由で楽しそうだった。

旅先で出会った人同士で時間も気にせずに旅する姿はザ・旅人という感じで、

当時会社員だった僕はキツキツのスケジュールで忙しい旅をしていたから、

いつか自分もこんな旅をしてみたいなあと、ずっと羨ましく思っていた。

しかも、旅人たちはネタの宝庫で面白かった。

タイでめっちゃかわいい女の子とヤレると思ったら実は男で

仕方なくヤッたんすよーとか（やるんかい）、

インドに行って空港を出たら拉致られましたね・・・とか、

女子高生の時、家に帰る電車賃がないからヒッチハイクで帰ったのよーとか。

みんなそれぞれ何かしらネタを持っていて、面白かった。

俺もこんな面白ネタのある人になりたいと憧れた。

ただ、旅人たちと絡んで一つだけ僕が

嫌だなあと思ったのは、旅人の多くが、

日本で働いて貯金する→仕事を辞める→長期の旅をする→貯金が尽きたら日本に戻って働く

→お金を貯める→仕事を辞める→また旅に出る

これを繰り返しているところだった。

若いうちはその生き方で良いかもしれないが、

歳をとるにつれて、なんとなくジリ貧になっている感じがあった。

若い時だけ楽しくても人生トータルで楽しくないと意味ないよなと思った。

だから僕はただ旅をするのではなく、

起業家らしく旅をしながらビジネスをして、

自分の力で旅費を稼げたら最高なんじゃないか？

どうせトヨタを辞めたんだから、思いっきりやりたい事をやってしまえ。
ダメだったら就職すれば良いんだ。
と考え、世界一周×ビジネスの旅をしようと思った。
会社を辞めて半年後の２０１６年９月に世界一周に出発することにした。

日本での挑戦① 旅好きたちのイベント

世界一周に行くことが決まり、出発までの半年間、色んなことに挑戦した。
日本にいるうちに、もっとビジネスややり残したことに挑戦しようと思った。
旅をしていて万が一死ぬことだってあるかもしれない、
３年間お世話になった愛知で何かできることはないか？

そう思い、始めたのが旅好きたちのイベントだった。
ひとり旅が好きな人は旅先での出会いはあるが、
日本で旅好き同士がつながる機会があまりないと気づいた。

そこで、旅好きたちが集まって横のつながりが出来るイベントをやってはどうか？
と思い、名古屋で月に1回ぐらいのペースで旅好きたちが集まるイベントをやった。

第一回目の居酒屋での飲み会に始まり、立食パーティー、
バーベキューをやって、最終的にはクラブを貸し切って
旅で有名なユーチューバーを呼んでトークライブをしてもらった。

最初は大変だった。
たった一人で始めたイベントで、人が全く集まってないのに
勢いで居酒屋を４０人ぐらいで予約してしまった。

全然申し込みがこなくて、やべーやべーと名古屋の駅前で
路上で声かけしながら集客をしていた。

根がネクラコミュ障なので、超負荷がかかってキツい。
誰にも声をかけられずに最初の1時間はずっとウロウロしていて、
あっちから声をかけられたと思ったら宗教の勧誘だった（笑）

でも、そこから頑張って声かけをして、４人ぐらい参加者をゲットして、
ネット上で「参加者第一号です！」と中継して盛り上がってる感を
出したらどんどん申し込みが増えて、気づいたら４３人ほど集まった。

おかげさまで、第一回目から満員御礼で、
面白そうだと思ったのか徐々に協力してくれる運営メンバーができてきて、
毎回４０～５０人くらい集まるイベントになった。

噂が広まり、わざわざ大阪や東京、静岡、三重県など
他県からも来てくれる人がいた時は嬉しかった。

綿あめみたいなもので、最初はたった一人でもやっていると
どんどん協力者が増えて大きくなっていくんだなあと、このイベントから学んだ。

ちなみにイベント開催は今でも好きで、

メルマガ読者の人やオンライン講座の受講生を対象に、
クルーザーでバーベキュー懇親会とか、
葉山の豪邸に泊まって夏の思い出作ろうぜ懇親会とか、
平日の昼から居酒屋４件はしごしようぜ懇親会とかをたまーに開催している。

毎回たくさん応募いただいて、いつも抽選なんだけど、
興味ある人はメルマガをチェックしていただければと思います。

イベントはキャンセルリスクや集客、
準備が大変な割に経費がかかって利益が出づらいので
ビジネスモデルを組まずにイベント単体でめっちゃ儲けようとするのは

オススメできないけれど、

主催者になると、自然と人の繋がりが出来るし楽しいので、

月に４〜５万ぐらい楽しく稼げれば良いかなーという人にはオススメ。

【写真】名古屋で開催していた旅好き達の集まるイベント BBQ編

日本での挑戦② 愛知→北海道に0円ヒッチハイク旅

世界一周までの準備期間はイベント屋をやったり、
飲食店やビジネス系の協会の動画制作をやっていた。

でも、めっちゃ儲かるわけでもないし、
なんか突き抜けてない感、殻を破れてないショボい自分が嫌だった。

そんな時、イベントで知り合った経営者がやっている
名古屋の経営者飲み会に行くことになった。

そこで面白い人と出会い、僕はヒッチハイクをすることになる。

その人は経営者のプロデューサーをやっている人で、

その人がプロデュースしたお客さんは、ぶっ飛んだ成功をすると噂だった。

例えばペット専門のカメラマンをしている人はプロデュースしてもらったら、

某メジャーリーガー夫婦（奥さんは有名タレント）のペットを

撮らせてもらえることになったり、

別の事例では、とある業界の法律を変えたり、

ベストセラー作家を輩出したり。

すごくぶっ飛んだ成果を出しているプロデューサーの方だった。

で、その人に「自分の殻を破りたいんですよね〜」と、

飲みながら話したところ、

「じゃあ、ヒッチハイクでもやったらいいんじゃない？」

と言われた。

でも、普通にヒッチハイクしても面白くないよねってことで、

「一円も持たずに愛知からヒッチハイク旅をスタートして、

北海道に住んでいる母をいきなり訪ねて、びっくりさせるってのはどう？」
ってことになった。

「Ｙｏｕ早速明日から行っちゃいなよ！
起業家に必要なのはどんな状況でもなんとかする突破力ダヨ！」

的なことを言われ、
「あ、あ、明日からですかー！！？？」
戸惑いつつも、翌日、言われるがまま
愛知から北海道へ０円ヒッチハイク旅をスタートした（素直）。

持ち物は着替え、２リットルの水が入ったペットボトル、カメラ、ホワイトボード。

詳細はブログにも書いたけれど、結論から言うと

やってめちゃめちゃ良かった。

ヒッチハイクは最初の１台さえ捕まえてしまえば、あとは意外と簡単で、

愛知を出発して、２４時間後には青森に到着していた。

途中、口にピアスをつけたイカついＶ系バンドのお兄さんからおにぎりを恵んでもらったり、

トラックの運転手の人にマックをご馳走になったり。

たくさんの人にお世話になった。

青森県では泊まるところがないので
「今日泊めてもらえませんか？」と、１００人以上に声をかけ、断られ続けて、
やっとの事で泊めていただける人が見つかって、
なんとその人の家でお酒とご飯までご馳走になって、夜遅くまで語りあった。

1時間前まで全く知らなかった人のお家で
一緒に酒を飲んで語り合うなんて不思議だなあと思った。
僕はこの人生を自分で切り開いてる感じが嬉しくて、
いつの間にかこの旅を楽しんでいた。

で、青森までは順調に来れたのだけど、次なる課題が現れた。

青森から北海道に行くフェリー代がない。
６０００円ほどかかるが、１円も持ってきてないので、
フェリーに乗れない。

で、どうしようかと思い、
旅の記録用に１眼レフを持っていたので、
これで稼げないかな？と思った。

このカメラで撮影した写真や動画を使って、お店の紹介ムービーを作り、
youtubeにアップして、ネットでお店のＰＲをしませんか？

というサービスはどうだろうと即席で考えた。

とりあえずこのアイデアを試してみようと思い、

視界に入った個人経営の婦人服屋さんに訪問した。

「私、愛知から今旅で来てるのですが、旅の資金を集めてまして。

このカメラでお店を撮影して、ネット上でお店をＰＲしませんか！？

ネット上でＰＲしたら、よりお客さんが増えると思います！

お代は好きな金額で構いませんので！」

と、どストレートに言ってみた。

今考えたら、青森の田舎の婦人服屋さんをネットでＰＲしても、
ターゲットに届かないだろと、ツッコミどころ満載なのだが、
その時は本当にそれでお客さんが増えると思っていた。

「あんたなんでこんなことしてんの？」
服屋のおばさんにジロリとみられた。

「いやあ、自分の殻を破りたくて、母を訪ねて愛知からヒッチハイクをしながら
０円旅をしてまして・・・
そのフェリー代が必要で・・・」
と話すと、不審そうな顔をしていたおばさんがいきなりアッハッハ！と笑い出した。

「いいよ！ＰＲとかはしなくていいからお金あげるよ。１０００円でいい？」
「ええ！？いや、そんな悪いですよ・・・是非ＰＲさせてください！」
「しなくて結構！だってそんなのネットに載せられたら、
あんたみたいな人がまたたくさんくるかもしれないでしょ！笑」
「ああ、その発想はありませんでした・・・すみません」
なぜか気に入られ、そのおばさんは更に、
「隣に歯医者さんあるでしょ？あそこにも行ってごらん！
私そこの奥さんと仲良いから、隣の服屋のおばさんに言われてきましたーって言ったら、
たぶんお金くれるわよ 笑」

「ええ！？本当ですか！？わかりました！行ってみます！」

で、隣の歯医者さんに行くと、本当に奥さんが出てきて、
服屋のおばさんに言われたので来ました！と言ったら
めっちゃ笑っていて、なんと２０００円もいただいた。
そして、その様子を見ていた患者さんからも５００円いただいた 笑

もちろん全部がうまくいったわけではなくて、
別の店に行ったら、帰れ帰れ！と門前払いされて少し凹んだりもした。
でも普通に考えたらこっちの反応の方が普通だよな。と再確認して、

気持ちを入れ替えて、どんどん道ゆく人にアタックしまくった。

この旅が始まる前は、ヒッチハイクのホワイトボードを掲げるのですら
めちゃめちゃ恥ずかしくて抵抗があったのに、
いつの間にか知らない人に声をかけるのが恥ずかしくなくなっていた。

どこでも生きていける生命力が身についたような気がした。

で、捨てる神あれば拾う神ありで、
僕が「母を訪ねて愛知→北海道へ０円旅中！」と書かれた
でかいダンボールを背負っているものだから、

なんだろう？と思ったおばあさんが声をかけてくれて、

ウチによってお茶でもしていけと言われ、

気づいたら知らない床屋さんで1時間ぐらいお茶しながら話をして、

１０００円頂いていた。

で、気づいたらあっという間にフェリー代がたまっていた。

めちゃめちゃ嬉しくて、ありがたかった。

そして、無事に青森から北海道行きのフェリーに乗り、

北海道の母のところにたどり着けた。

息子が突然現れて、しかもヒッチハイクで来たというのだから、
母はめちゃめちゃ驚いていた。

この旅は本当に人の優しさを感じた旅で、
最初は絶対無理だーと思っていたけれど、
案外なんとでもなるんだってことを実感できて、
僕の中で何かが変わった旅だった。

【写真】愛知→北海道０円ヒッチハイク

人生変わった人が爆誕する

ちなみに後日談だけど、面白いことが起こった。
この旅の途中、母校の高校で特別に授業をさせてもらったら、
その授業がきっかけで人生が変わった人が生まれた。

授業では、僕のこれまでについて話した。

良い大学に行って、トヨタに行ったけど、
今は辞めて、自分でビジネスをしていて、

３ヶ月後には世界一周に出発しますーって話をした。

昔は良い大学に行って、良い会社に入るのが最高の幸せだと思っていたけど、

そのレールから外れてみたら、今めっちゃ人生が楽しくて。

ここに来るまでもたくさんの人にお世話になったんです。

人生、生き方なんて色々なので、

こんな生き方もあるんだーって頭の片隅にでも残ってくれたら嬉しいですー。

と、ある意味、進学校の営業妨害みたいな授業をした（笑）

で、そしたら、
一人の男の子が僕の話に触発されたらしく、
僕と出会った半年後、高校を辞めて、チャリで日本一周したとメールが来た。

その子は、親や先生に言われるまま、とりあえず高校に入ったけど、ずっと行く目的もなく、
やりたいことがなかった。

自分は飢餓に苦しむ子供に関心があるから、本当はそれ関連の仕事がやりたいと思っていた。
だけど、親や先生に勧められるがまま、高校に進学して、
やりたいことがないからずっとダラダラしていて、そんな自分が嫌だった。

そんな時に、僕がヒッチハイクで来ましたーって登場して、
すげーこんな人いるんだ。
テレビみたいな人だ。
と勇気をもらって、自分も行動してみたらしい。

来年の春からブラジル、イギリス、アメリカのどこかで2年間ボランティアして、
アメリカの大学で経営学と会計学を学びたい。
将来の夢は起業家です。
と言っていた。
若いのにすげーなと思った。

俺がこの子ぐらいの時は、漫画を読んで学校と家を往復するだけの生活だったのに、
高校でやりたいことがないと悩むのがそもそも凄い。

そして、僕みたいな会社から逃げたしょうもない人間でも、
他人に勇気を与えられるんだってことに気づかせてもらい、
逆に勇気をもらった。

その時の経験があるので、情報を発信するってすごく意義があることだと思っていて、
今はブログやメルマガ、この電子書籍を書く時の自分のモチベーションに繋がっている。

【写真】母校の高校でやった特別授業

Youtuberを呼んで世界一周出発式

いよいよ出発が近づいてきた。

僕はこれまでやってきた旅好きイベントの最終回と

自分の世界一周出発式を兼ねてイベントをやった。

名古屋のクラブを貸し切って、旅で有名なyoutuberの方をゲストに、

交流あり、お笑いあり、バンドあり、

youtuberのトークライブあり、ダンスありのイベントをやった。

ダンスでは大学時代のチームメイトが東京や山梨からわざわざ駆けつけてくれて、
学生時代にやった思い出のショーケースを一緒に踊ってめちゃめちゃ嬉しかった。

この時は、大阪や東京など色んなところからお客さんが来てくれて、
このイベントのおかげで旅好きの友達ができました！って言ってくれる人もいて、
めちゃめちゃ嬉しかった。

【写真】有名Youtuberをゲストに呼んだ世界一周出発式

世界一周に出発
異国の地でストリート書道をして絶望

そして、世界一周に出発。

世界一周の1カ国目、僕はフィリピンのセブ島にいた。

英語力を身につけるために2ヶ月間、朝6時から夜の9時まで勉強がある刑務所のような語学学校に入学した。

平日は学校から出られないので、週末はクラスの友達の台湾人や韓国人と一緒に船で離島に遊びに行っていた。

平日は学校、週末は友達と旅行で自由にできる時間が少なかったが、
せっかくの世界一周1カ国目、何かビジネスをしてみたかった。

で、その時やってみたのが、ストリート書道。
セブ島のＩＴ企業が集まるエリアで路上に座り込み、
お客さんの名前を漢字で当て字にして書いた書を売った。

物珍しかったせいか、めちゃめちゃ人が集まって注目を集めて、
ものすごい盛り上がってる感があった。
相場がよく分からなかったので、値段はあちらの言い値で売った。
小さい子供がお小遣いを握りしめて買いに来てくれた。

単純に嬉しかった。５時間ぐらいやってみて、結構書いた感覚があって、
気持ち的には大成功だった。
で、最後。いくら売れたかなーと計算してみたら、なんと、９３ペソ・・・
日本円にして２００円ぐらい。
現地のご飯２食分ぐらいの値段だった・・・

お客さんがたくさん集まって成功した気分にはなったけど、
単価が安かったので全然儲からなかった。

これでは全然生きていけない。

楽しかったけど、全然儲からなくてビジネスとしては悔しかった。

どうせやるなら現地のフィリピン人より、

フィリピンに来ている外国人旅行客の方が良かったのではないか？など

色々と反省点が見つかり、フィリピンでの英語留学が終わり、

２カ国目のオーストラリアに移動した。

【写真】ストリート書道を買ってくれたフィリピンの女の子

年収1億円の23歳との出会い

2カ国目はオーストラリアに行った。

フィリピンから行きやすいのと、ワーキングホリデービザが取れるので、

長期滞在しやすかったからだ。

フィリピン→オーストラリアの流れは世界一周系の人には鉄板ルートらしい。

フィリピンでの反省点は物価が安すぎて、

お金があまりないターゲットに対して商売してしまったことだ。

なので、頑張った割に全然儲からなかった。
その点、オーストラリアは日本よりも物価が高い。
ビジネスをする上ではすごく良さそうだった。

フィリピンでの反省を活かし、
オーストラリアでは訪問マッサージをしようと思った。

ストリート書道はその場限りで終わってしまうからリピートがない。
だけど、マッサージであれば、元手がかからないし、リピートがあると思った。

オーストラリアは訪問型の家の掃除サービスが普通に使われているので、

訪問型のマッサージも同じようにいけるんじゃないかと思った。

さらに相手の家に入れたら、もっと収益ポイントを作れるのではないかと思った。

例えば、一眼レフを持っているお宅だったら、日本のカメラのレンズは世界的に人気だけど、オーストラリアで買うと高いので、それを日本から直で輸入して売ってあげる。

ってことも出来るのではないかと思った。

今考えるとあんまり儲からなそうだが、

当時はこれが考えられる最高のアイデアだったのだ。

マッサージＺＥＮと命名し、早速英語でチラシを書いていた。
そんな時、僕の世界一周の転機となる出来事が起こった。

２３歳で年収１億円・・・？？

たまたまネットサーフィンをしていたら、とあるブログに辿り着いた。
年収１億円の２３歳経営者ブログみたいなタイトルだった。

なにこれ
うさんくさ・・・

怪しいなーと思いつつも、どれどれ見てやるかという、
謎の上から目線でブログを読んでみた。

その人のブログには２０歳の時にはビジネスで月収１００万円を超えていた話や
資産２０億円持っている人の話とか、意味不明なぶっ飛んだ世界のことが書かれていた。

外に出るのが苦手で、インターネットを使って家にいながら、
パソコン1台で1億円を稼いでいるらしい。

ブログを読んでみると、タイトルこそ怪しかったが、
記事の内容は意外とまともなことが書いてあった。

スマホでぽちぽちするだけでおじいちゃんでも月収１００万円みたいな
詐欺的なものを想像していたが、
書いてあったのは
ビジネスするなら固定費かけちゃだめだとか、

知識ないのに行動しても結果でないよね？
ネットとパソコンさえあれば、家で全部できるっしょ。

という、いたってまともな勉強になる話ばかりだった。

その人は、ネット上にサイトを作って、そこでサービスの販売をしたり、
他人の商品を販売して、稼いでいるらしい。

ネットを使えば、日本はもちろん海外も相手にビジネスできるので、
超楽だし、寝てても勝手に売れて、収益が生まれると言っていた。

当時の僕とは真逆の考え方で衝撃を受けた。

当時の僕は
とにかく動くのが大事、行動力こそ全て！
という価値観だったので、

自分とは真逆の考え方で圧倒的に成果を出しているその男に、僕は衝撃を受けた。

今まで自分がやってきたことは、とにかく動くことばかりで、

頑張ってる感はあったけど、大きな成果は得られていなかった。

フィリピンの書道もそうだし、日本でやっていた転売系も、動画制作も、イベントも。

とにかく仕入れに飛び回ったり、お客さんのところに出向いたり、

自分が動かないと儲からない仕組みだった。

なので、やればやるほど忙しくなってしまうのだ。

他人からは頑張ってるねーとか、凄いねーって言われるので、それが正解だと思っていた。

これを続けていれば、いつかは何か当たって成功するんだ。と思っていた。

だけど、その男は真逆で、全て逆算で狙って行動していて、

無駄な努力はしないという考え方だった。

成功すべくして、成功している感じがした。

すげー人がいるもんだなー。

僕は面白そうだったので、メルマガにも登録してみた。

そして、これが今後の人生を大きく変えることになるとは、

この時思ってもいなかった。

一億の男に会えるチャンス

メルマガに登録して1ヶ月経った頃、こんなメールが来た。

タイトル：懇親会やります。

本文：１２月に銀座で懇親会やります。年末に楽しみましょう。

応募者多数になると思うので参加したい人は全力でアピールしてください。

こんなことが書いてあった。

懇親会かあ〜。いいなー行きたいなー

でも、今オーストラリアだしさすがに無理だなー

めちゃめちゃ行きたかった。

本当に年収一億円の２３歳はいるのか？どんな人なんだ？

実際に会って話を聞いてみたかった。

あー東京にいれば参加できたのになー

また開催されるかなー？

その時は行きたいなー

非常に残念だったが、まー無理なものはしょうがない。
忘れようと思い、スマホをぽいっとベットに投げ捨てた。。

5日後〜

申し込みそろそろ締め切りま〜す。

というメールが来た。

いいなあ、行きたいなあ

てか、本当に行かなくていいのか俺？

せっかくのチャンスなんだぞ？

僕の脳内では、行った方がいいんじゃね？派閥の自分と、

いや無理っしょ派閥の自分が闘っていた。

「いやでもさー、さすがにオーストラリアよ？

無理に決まってるっしょ。

仮に参加できたとしても、懇親会5日後よ？

厳しくね？」

「いやでもさ、逆に考えてみ？

自分が年収1億円だったとしたら、めっちゃ会いたい人がいたら
ブラジルでもどこでも会いに行かね？」

「まあ、年収1億円だったらいくわなー
でも俺年収1億円じゃないし。
金ないし。」

「いや、逆に金ないうちから年収1億円の人の行動をすることによって
本当に年収1億円になるんじゃね？
なんかそういうのあるじゃん？」

「ああーまあ確かに。
俺の場合、行動はしてるけど金持ちになる人の行動ではない気がする。
いやーでもさすがに・・・」

「てかさ、お前そもそも年収1億円の男って会ったことある？
なくない？
しかも23歳で年収1億よ？
自分より若くして成功してる人を見たら、
自分もいけるんじゃね？って何かスイッチ入るかもよ。」

「んーたしかに見てみたい感はある・・・」

「行こうよ！仮になにも起こらなくても、
オーストラリアから年収1億円の２３歳に会いに行ったってネタになるよ。
なんかブログとかに書いてネタにすればいいじゃん！」

「あああああああ、、、、
うーーーーーん・・・・

・・・行くか、行くか！
てか応募したところで当たるかどうかわかんねーし。
とりあえず応募だけしてみて、当たったらまた考えよう！

わかった。よし、応募する！！」

という、脳内対話が繰り広げられ、

行くべき派が勝利し、僕は懇親会に応募した。

どうせ応募するなら絶対に行きたいと思い、

応募フォームには書けるだけアピールできることを書きまくった。

はじめまして、マスタングと申します！

今、世界一周の旅をしていて、オーストラリアのメルボルンに在住している者です！

いつもメルマガで勉強させていただいてます！ありがとうございます！

自分はトヨタでレクサスの開発をしていましたが、
３年働いてみて会社に疑問を感じて、起業をしようと思い辞めました！

今は世界一周をしながら、渡航した国で自分でビジネスをして
生きていくライフスタイルを確立しようとしています！
今はオーストラリアで訪問マッサージのビジネスをしようと思っていて、
英語でチラシを書いてるところでした！

前の国のフィリピンでは路上で書道パフォーマンスをして、
それを現地の人に売っていました！

もし、懇親会に参加できることになりましたら、
一億の男さんが日本酒が好きとブログで書いてあったので、
非常に珍しい日本酒をお持ちしたいと思います！

上場企業の社長さんも来る日本料理屋さんで
料理と日本酒のペアリングで出されていた、
古酒という熟成した日本酒です！普通の日本酒と違って香ばしくて、
コクがあってとっても美味しいです！！
僕はこの日本酒で初めて日本酒が好きになりました！

あまり出回っていないお酒なので、もし懇親会に参加できることになりましたら、

京都の酒屋さんからなんとしてでも手配して、懇親会にお持ちいたします！

オーストラリアからこの会のためだけに帰国しますので、
ブログに、懇親会のためにオーストラリアから
変なやつが来たとネタに使っていただいても構いません！

なんとしてでも参加したいのでよろしくお願いします！！

・・・こんな感じで、少しでもこいつ面白そうと思ってもらえるのと、
メリットを提示することを意識して、
当時の自分ができる最大限のアピールで応募フォームの

申し込みボタンをポチった。

翌日〜

メールが来た。

こんにちは。

このメールが来ている人は参加ＯＫです。

１２月３日の１９時から銀座。

場所は今選んでいるので、また連絡します。

・・・・当たった！？？？
うおおおおおおおお！！！
よっしゃあああ！！！
１億の男に会えるぞおおおおおお！！！！

まるで大学受験にでも合格したかのように、僕はガッツポーズした。
懇親会は７２時間後。やばい急がないと。
飛行機は直前だったので往復１０万円ぐらいかかるみたいだった。
１０万かあ、高え・・・・
一瞬ひるみかけたが、
でも、これは普通の帰国とは違う。

今まで自分が出会ったことがないバケモノに遭遇できる
意味のある帰国だと思ったので、ええいと勢いに任せて予約した。

そして、知り合いのツテをたどって国際電話で京都の酒屋さんに連絡して
日本酒を送って欲しいとお願いした。

うちは通販やってないんだけどなーと、最初は拒否されたが、
０円ヒッチハイクの時の精神で、必死にお願いをしたら、
なんとか懇親会会場近くに送ってもらえることになった。

３日後、懇親会当日、僕は東京にいた。
成田空港から銀座に移動し、途中日本酒を受け取って、会場の焼肉屋に入った。
お店の人に案内されると、すでに１０人ぐらい人がいた。

どの人だろう？
キョロキョロ見回したら、youtubeで聞いたことがある声を発する
体の大きい若そうな兄ちゃんがいた。

もしかして、一億の男さんですか？
はい、そうです。

年収一億の男というから、全身ブランドもので固めた
ギラギラ系の人を想像していたが、
大学生っぽい普通のお兄ちゃんだった。

ただ、明らかに普通の大学生と違う感じがあり、
目に力強さがあり、覇気みたいなものを感じた。

懇親会が始まった。
隣の席にいた若い人に話しかけたら、実はその若い人も
一億の男からビジネスを学んだ人らしい。

大学生なのに、アマゾンで商品を販売したり、
ウェブサイトの運営などで月１００万円以上稼いでいるらしい。
つ、月１００万円だと・・・・
なんだ、この世界は・・・・

フィリピンで汗水垂らしながらせっせと書道を売って２００円稼いでいる時に、
この人たちはネットを使って家にいながら
大学生で月１００万円稼いでいるのだ。

衝撃だった。
俺は何をしていたんだ・・・

そして、一億の男が席を移り、たまたま目の前の席に来た。
僕はiphoneのメモ帳に書き溜めた質問をしまくった。

今までどんなビジネスをしてきたのか？とか、
今、訪問マッサージのビジネスをしようと思っているのだけど、どう思うか？
とかを聞いた。

一億の男と話してみて、分かったことがあった。
僕は、旅をしながら、行く先々で何かビジネスをしようと思っていたが、
旅先でビジネスを作るということは、違う国に移動したら

毎回ゼロからのスタートになるということだ。

ビジネスとはそういうものではなくて、
育てて成長させていくものだということが分かった。

インターネット上でビジネスを構築すれば、
国が変わっても関係がないし、世界中の人を相手にできる。
もしダメだったとしても、ネットだとコストが少ないので、リスクが低い。
ビジネスするならネットだと。

それに、海外でしっかりビジネスをするなら、信頼できるパートナーも必要だから、

そのパートナーを探すのも時間がかかる。

僕みたいに世界中回ってみたいという人間はネットでやった方が
時間的にも効率が良いし、リスクが低いし、
たくさんの人を相手にできるから儲かりやすい。ということが分かった。

ものすごく勉強になった。来て本当に良かった。
この事を知らなかったら、めちゃくちゃ遠回りするところだった。

素人の僕が思いついたことを手当たり次第やるのと、
色んなビジネスを経験している男とでは全然思考回路が違った。

これで２３歳かあ・・・すげーなああ

そうして、あっという間に懇親会が終わった。

「じゃ、おつかれっす」

男がそう言って立ち去ろうとした時、

「すみません！ちょっと待ってください！」

僕は男を呼び止めた。

「あの、一億の男さんとお会いして、もっと一億の男さんから学びたいと思いました。
僕に直接ご指導していただけないでしょうか？
もちろんお金はお支払いします！」

「あー、そういうのあんまやってないんですけど・・・
じゃあ、今日は遅いので今の状況をメールしといてください」

「わかりました！」
僕は宿に着くなり、速攻でパソコンを開き、
一億の男に今日のお礼と今の状況、
直接指導を受けたいという熱い想いをメールした。

そして、オーストラリアに戻った後、改めて通話し、
僕は一億の男から直接学べることになった。
教えてもらえる期間は1年間。

世界一周用に用意していた資金のほとんどを男に振り込んだ。
どんなに節約してもあと9ヶ月ぐらいでもう後がなかった。

僕の第二の挑戦が始まった。

地味すぎる作業。本当に大丈夫なのか？

まず最初に徹底的に知識をつけることから始まった。

知識をおろそかにして、とにかく行動すれば良いと思っていたのが

僕の悪いところだった。

師匠からは

ちゃんとした知識がないと、行動しまくっても無駄に終わるので、

まずはビジネスについて、基礎から徹底的に学びましょう。

まずは動画みてください。

と言われた。

俺には時間がない。

どんどん作業したいのに、動画なんか見てて大丈夫かな・・・

僕は不安に思った。

しかし、僕は今回の指導を受けるにあたり、

師匠の言うことには全面服従して、一切の自己流を消そう。

と決めた。

自己流でやりまくった結果が今なので、

とにかく結果が出る人の言う事を言われた通りにやってみようと思った。

それからというもの、

僕は常にイヤフォンを耳にぶっ刺し、起きている間は師匠の音声を流し続け、

徹底的に学びまくった。

マーケットに買い物に行くときも、路面電車に乗っている時も、

料理しているときも、う〇んこをしている時も、

ジムで筋トレしている時も、散歩している時も。

ありとあらゆる隙間時間を全て学習に費やした。

で、聞いているだけだと意味がないので、メモアプリにメモをしまくり、
学んだ事をベースに具体的に何をするか？
知識を応用すると、どんなことが出来るか？

をアウトプットするようにした。

そしたら、だんだん頭の中に知識が溜まってきて、アイデア力も高まって
思考回路がどんどん変わっていくのを感じた。
確実に頭が良くなっていた。

例えば、カフェに行ってもレストランに行っても、

あれ、ここをもっとこう改善したら、単価が上がって儲かるんじゃないか？
とか、
こうしたらもっとリピートが増えて売上が上がるんじゃないか？
と、自然と考えられるようになった。

で、その事を師匠に報告したら、
「いい感じになってきましたね、じゃあ今度は作業に移りましょうか。
ネットで儲かる仕組みを作りましょう。」

そして、いよいよ作業に入った。

と、言っても作業はとても地味で、
ヤフー知恵袋やツイッターでお客さんの悩みを調べてリストアップしたり、
調べたことを元にブログ記事を書いたり、ツイッターを作ったり。

当時は自分の商品やサービスがなかったので、他人の商品を売っていた。
アフィリエイトという、自分が書いた記事から商品が売れたら報酬が貰える
というやり方をしていた。
要はネット上の営業マンみたいな感じだ。

朝から晩までパソコンと向き合い、
オーストラリアにいるのにひたすら家でカタカタしていた。

じ、地味すぎる・・・
こんなので本当に大丈夫なのか？

今までリアル第一主義で活動してきた僕にとって、
地味すぎて不安になる作業ばかりだった。

これまでだったら、バーンと路上で何かをしたり、
人を集めてわーっとイベントをやったり、
直接人に会ってサービスを提案していたのに、
今はひたすらパソコンと向き合って一日中カタカタしているのだ。

相手が見えないから、本当にこれでイケるのかなー？と不安感があった。

途中心が折れそうになったこともあって、

３日ぐらい作業をサボって師匠と音信不通になったこともあり、

その時は罪悪感がやばかった。

コンサルティング期間の３６５日のうち、３日間も無駄にしてしまったのだ。

なんてもったいない事をしてしまったのだろうと情けなくなった。

受験勉強しかり、学校の授業しかり、

僕はこれまでの人生で

『地味な作業を継続して積み上げる』という事から逃げ続けてきた。

でも、振り返ると、僕の周りで受験なりビジネスなりで成功している人は、

地味だけど重要な事を継続している人だった。

これが僕の弱点だと思った。

逆にこれを克服すればもっともっと飛躍できる事を信じて、地味な作業を続けた。

そして、そんな事を1ヶ月ほど続けていたら・・・

なんと、サイトにアクセスが来るようになったり、

ＳＮＳにもフォロワーがつくようになった！

いいねもされてる！！

この世界のどこかに自分の投稿を見てくれる人がいるんだ！

そう考えると、嬉しくなった。

中には返信をくれる人もいた。

師匠に報告すると、

「お、いいっすね。反応があるということは良い文章を書けてる証拠っすよ。

ちゃんと学んだ事を実践できてますね。」

と言われ、嬉しくなった。

ネットすげえ！！！

やってみて分かったのは、ビジネスの本質というのは非常にシンプルで、

ネットのビジネスでも、リアルのビジネスでも

やってることの根本は一緒だということ。

人を集めて、悩みを解決できる商品を置いておけばいいだけなのだ。

ネットの場合は、人が集まるＳＮＳやブログを作って

そこに何かしらの商品を置いて売る。

自分の商品がなければ、他人の商品を置いて、売れたらそ売上の一部をもらう。

基本はこれだけ。
非常にシンプルだった。

ネットが良いのは、
場所や距離の制限がないから、世界中の人を同時に相手してもパンクしないし、
儲かりやすい。

これからはネットを活用できればめちゃめちゃ強いんだ！
今まで学んだ知識が繋がり、将来に希望が見えた。
頑張ろうと思った。

ひたすらカタカタして、疲れたら休憩がてら音声を聞いて、
夜のメルボルンの街を散歩していた。

メルボルンは週末になると、肌を露出した白人の女子たちが
クラブの前で行列をなしている。
あー俺もクラブいきてーと誘惑に駆られたが、

しかし、そんな事は稼いだらいつでも出来る。
気持ちを切り替え、家に帰り、作業に戻った。

そんな地味な毎日だった。

でも、振り返ると、毎日確実に前進していて、
地味だけどすごく充実した日々だったと思う。
で、そんな事を続けていたら４ヶ月が経った。

初収益！！

ある日、メールに通知が来ていた。

見慣れない通知だった。

なんだろう？と思ってみると、それは初めての売上通知だった。

金額は２万円。

２万円

２００００円

にまんえん・・・？？

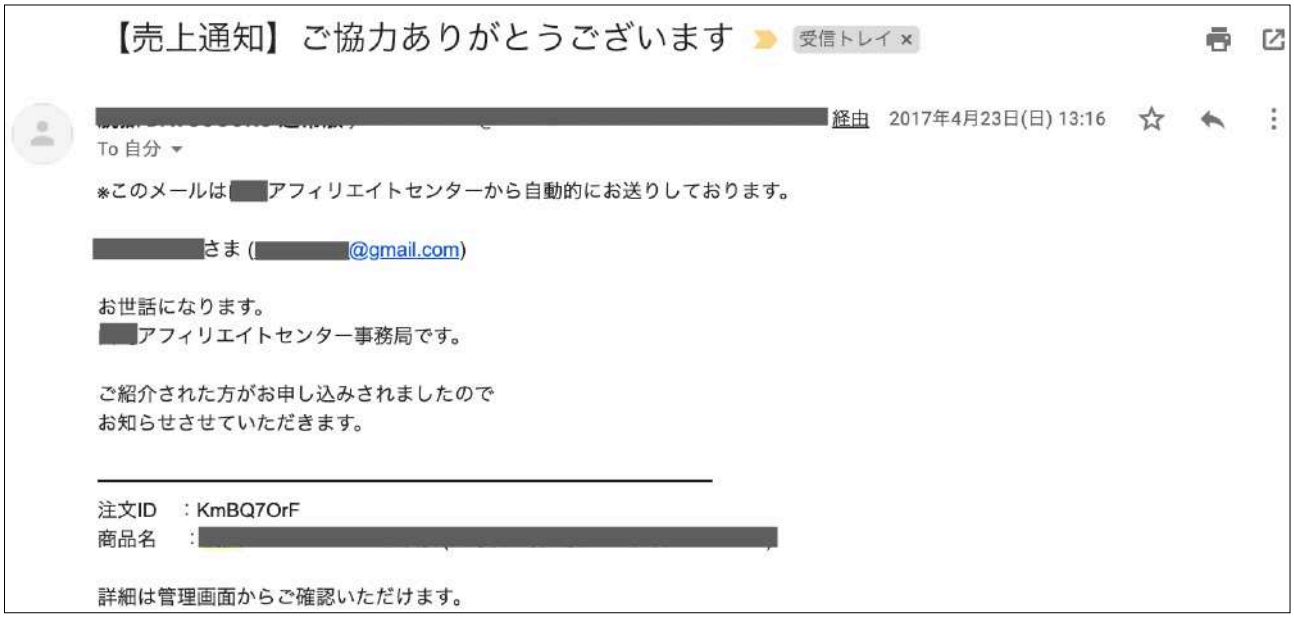
うおおおおやったあああああ！！！！
初報酬だあああああああああ！！！！！

すぐさまスカイプで師匠に報告した。
いつもはクールな師匠も
「おめでとうございます！やりましたね！」
と祝ってくれた。

嬉しかった。めちゃめちゃ嬉しかった。
本当にイケるのか？
と不安になりかけていたが、実際に収益が生まれたことで

確信に変わった瞬間だった。
なんだか嬉しくて、久しぶりに母ちゃんにも連絡してしまった。
たくさん稼いで母ちゃんと妹を石垣島に連れていくから！
と約束したら、喜んでいた。

で、そこからは今まで以上に作業にも熱が入り、
５ヶ月目には月収４０万円、９ヶ月目には月収１００万円を突破した。



【売上通知】ご協力ありがとうございます 受信トレイ ×

[redacted] 経由 2017年4月23日(日) 13:16

To 自分

※このメールは[redacted]アフィリエイトセンターから自動的にお送りしております。

[redacted]さま ([redacted]@gmail.com)

お世話になります。
[redacted]アフィリエイトセンター事務局です。

ご紹介された方がお申し込みされましたので
お知らせさせていただきます。

注文ID ：KmBQ7OrF
商品名 ：[redacted]

詳細は管理画面からご確認いただけます。

【写真】初収益の売り上げ通知、いくら稼いでもこの時の感動に勝るものはない。

時間とお金を手にした世界

海外に来てからは、日々減りゆく口座の残高に不安を感じていたが、
成果が出るようになってからは、逆に増えるようになって、不安感がなくなった。

そして、オーストラリアの行きたかった場所に行けるようになり、
ようやくオーストラリア生活を満喫できるようになった。

ずっと憧れだったスカイダイビングをしてみたり、

エアーズロックという世界最大の一枚岩に
普通は飛行機で行くところをあえて車で行くツアーを企画したり
（なんと片道だけで日本縦断ぐらいの距離があるクレイジーななツアー）、
ミスチルのＰＶにも使われた、グレートオーシャンロードという
海沿いの美しいドライブスポットをＢＭＷのオープンカーでドライブする
という夢が実現した。
そんなことをしていたら、
オーストラリアの居心地の良さにすっかりハマってしまい、

早くも来て1年が経とうとしていた。

この時、僕の中で世界一周したいという願望はなくなっていた。

前は世界中を巡ってみたいと思ったけれど、

1年いたオーストラリアですら、知らないことがまだたくさんある。

世界一周といえば聞こえはいいけれど、色んな土地をポンポンと巡る

薄い旅をしたところで、見える景色が変わることにあまり意味を感じなかった。

それよりも今の若い時期に、もっとビジネスの力を高めたい！！！

もっとレベル上げをしたい！！！

そう思い、僕は師匠のいる日本に戻ろうと思った。

【写真】オーストラリアでスカイダイビング

ランボルギーニに乗ってみたり色々挑戦

本書も終わりにさしかかってきた。

日本に帰り、一番最初にしたのは、
北海道に住む母親に会いにいった。
今回はヒッチハイクではなく、普通に車を借りて行った笑

トヨタをやめて、海外に行ってフラフラして、どうなるか分からなかったけど、
ちゃんと生きていけるようになった事を母ちゃんに見せて、安心させたかった。

ちょっと高級な居酒屋に美味しいものを食べに連れて行ったら、
とても喜んでくれた。
というか、高いものでなくても、自分の子供が会いにきてくれるだけでも
親というのは嬉しいんだと思う。

僕がトヨタを辞めると言った時、
母は本当は心の中ではめちゃめちゃ心配だったらしい。

本当に大丈夫かな？
起業なんてして食べていけるのかな？

と思っていたらしい。

だけど、自分の子供が色々考えて始めた事だし、
応援してあげたいと思って、
あんたの人生なんだからやりたいようにやりなさい。
と言ってくれたらしい。

それを聞いて、親はすげーなと思った。
自分が逆の立場だったら本当に同じことを言えるだろうか？

自分も自分の子供がやりたいと思ったことを
応援できる大人でありたいなと思った。

母から
今はどんな仕事をしているの？と聞かれ、
いろいろ説明してみたれけど、
いまだにガラケーを使っているＩＴオンチの母は
あまり分からなそうだった。

要は、ネット使ってもの売ってるよー
といったら、

今時は便利だねー
どこにいてもそれ（パソコン）があれば仕事ができるんだねー
と言っていて、割と本質を見抜いているなと思った。

母が言うように、
ネットを使って仕事ができるようになったことで
プライベートでも仕事でも、人生の自由度が圧倒的に増した。

プライベートでは、
・母と妹を石垣島に連れて行ったり、
（よっぽど嬉しかったのか別れぎわ、泣きながらありがとうと言われた）

・ずっと憧れだったランボルギーニ・アヴェンタドールに乗ってドライブに行ってみた。
加速とエンジン音が凄すぎて死ぬほど楽しかった。
高速道路で周りの人たちが身を乗り出して見てくるのが面白かった（笑）
ポルシェとかも乗ってみたけど、僕はランボルギーニの方が
ドキドキ感があって好きだった。
あと、上に開くドアは不便だけどカッコいい。

・銀座の会員制のお寿司屋さんに行ってみた。のどぐろが死ぬほど美味しかった。

・トヨタを辞めても見捨てずにいてくれた彼女をアラスカに連れて行き、

スノーモービルで遊んだり、凍った湖の上で釣りをしたり、
ずっと夢だったオーロラの下でプロポーズをした。

仕事では、

・この人に会いたい！と思ったら、翌日には沖縄やシンガポールに行ったり。

・放置していても勝手に収益が生まれる仕組みを作って、
ゴロゴロ寝てても旅をしてても、ゲームしてても数千万利益が生まれるようにしたり。

・僕から学んだ人が１ヶ月で３０万円稼げるようになり、半年後には月に１２０万稼いだり。
別の人は１年かかったけど、毎月コンスタントに１００万円稼げるようになって、

一緒に仕事をするようになったり。

・日本に帰国してすぐはビジネス仲間もいなくてぼっちだったけど、
徐々に信頼できる仲間が出来たり。

・ネットで学んだ力が実店舗でも通用するのか腕試しをしたくて、
美容系のサロンをコンサルティングしたら、潰れかけだったのに、
翌月には売上が7倍に跳ね上がって、
他にも新しい集客方法を開発してあげたら、
その手法でも２０００万以上の売上が出たり。
（ちなみに集客コストが業界でもトップクラスにかかってないのがポイント）

・初めての実店舗経営に挑戦して、初月から１００万円の利益出して、
半年間で１８店舗というアホみたいなスピードで開業したり。
（これオフラインの経営者に言うと、ヤバイねって驚かれる笑）

たくさんのことを経験して、毎日楽しい人生を送っている。

会社員の頃はもう一年か・・・と、
時間が過ぎるのが速すぎて、絶望感に似た焦りを感じていたけれど、
ビジネスをするようになってからは、毎日が楽しく刺激があるので、
会社員時代の１０倍ぐらい濃く感じる。

【写真】ずっと憧れだったランボルギーニ・アヴェンタドールでドライブしてみた

落ちこぼれ社員でも自由になれた理由

僕は親が経営者とかでもないし、
会社ではいつも怒られてばかりの落ちこぼれだった。

ビジネスでも、初期はとんちんかんなことばかりやって、
明らかにセンスがない部類だった。
だけど、結果を出している人から正しい知識を学んで実践したおかげで
変わることができた。

人間誰しも知らないことは行動できない。
僕は自分がセンスがない人間だと知っていたからこそ、
センスを超えるために、正しい知識を学んだ。

その結果、自分よりもビジネス歴が長い、
経営者のおじさんやおばさんにも頼られるようになった。

就職や転職、ニートではない、第３の選択肢、
起業を選んだことで超人生が充実するようになった。

会社員の時は仕事が忙しくて自由な時間がなかったし、

毎月決まった給料の中からしかお金を使えなかった。

でも、起業してからは好きな時に好きな場所で好きな人と
やりたいことが出来るようになったし、
欲しいものがあったら、もっとお金を稼げば良いだけになったので
収入に上限がなくなった。頑張った分だけお金を使えるようになった。

だから僕は、もし昔の自分と似たような状況の人がいて、
どうしようか悩んでいたら自信を持って起業をオススメしたい。

ネットを使えば、月のコストが千円とか

かかっても四千円ぐらいでビジネスを始められる。
これはめちゃくちゃ凄いことだ。

リアルのビジネスをしようと思ったら、まず何年か貯金をして資金を貯めて、
次に金融機関に行って１０００万ぐらい借りてこないとスタート地点にすら立てない。
だけど、ネットだったら１０００円から始められるので、
リアルのビジネスの１万分の１のリスクで始められる。

ちなみに僕が経営していた実店舗は毎月何もしなくても
７００万ぐらいコストがかかっていた 笑
こんなコストのかかるビジネス、初心者が手を出したら死ぬのは当たり前だ。

だから、初心者は絶対にビジネスを始めるなら
オフラインではなく、リスクのないネットでやった方が良い。

それにネットなら昔の僕のようなアホみたいな行動力も必要ない（笑）

ちなみに、よく聞かれるけど、
プログラミングはできる必要ないので大丈夫。
僕もできない。

もちろん、全員が全員起業しろとは思わないし、

全員が独立すべきだなんて言わない。

でも、これを読んで自由な世界に興味が湧いた人は

副業でも良いと思うので、絶対にチャレンジする価値があると確信している。

自分でビジネスして、月３０万円ぐらい稼ぐのは

世間のイメージよりも驚くほどハードルが低いし、

ビジネスのスキルを身につけると、仮に転職するとしても、

全く違うジャンルの仕事に就く選択肢だって選べるようになる。

それに、他人からやらされる仕事ではなく、自分から進んで何か行動して

それでお客さんに喜ばれて、お金が儲かるという世界はめちゃめちゃ楽しい。

僕が会社員の頃の仕事は、

大企業すぎてお客さんとの距離がめちゃめちゃ遠くて、

見聞きするお客さんの声は、市場からのクレームで、

自分の仕事って本当にお客さんや世の中のためになってるのか？

と疑問を感じながら仕事をしていた。

でも、自分でビジネスをしたら、直接お客さんから良いことも悪いことも

フィードバックが来て、良いことは嬉しいし、悪いことは勉強になって楽しかった。

あと、自分の裁量で改善できるからスピード感があるし、すぐ反応がわかる。
上司の承認を取らなくて良いからめちゃめちゃ仕事が楽になった。

こんな風に起業して悪かったことよりも、
良いことの方が圧倒的に多くなった。
（悪くなったのは、会社に行かなくて良いので、いつまでも寝てしまって
昼夜逆転したり、上司がいないのでゲームばっかりしてダラダラしてしまうとか）

それに、ビジネスをすることによって鍛えられる力は
人生を生きる上でも非常に役に立った。

僕は元々人見知りでコミュ障で、大学生の時は
「知らない人とでも話が続く４０の方法」みたいな本を
買うぐらい、コミュニケーション能力にコンプレックスがあって、
そのせいで２１歳になるまで女子と一回も付き合ったことがなかった。

だけど、ビジネスを学んで、教養が身についたり、
心理学がわかるようになったり、セールス力がついたことで
少なくとも昔よりはモテるようになった。

バーで隣にいる女性と話していて教育論について語っていたら、
あちらからライン交換しませんかって言われたり、

偶然かなーと思って、代官山の蔦屋書店のスタバでも試したら
やっぱりライン交換できたり。

僕だけじゃなくて、僕からビジネスを学んだ人も
３０年間彼女がいなかったのに、ビジネスを学んだら初彼女ができたり。

昔の自分じゃありえなかったことが、
ビジネスをするようになってからは日常的に
発生するようになった。

他にも、僕のお客さんで、

教えてもらった文章術を会社で試したら、
今まで反応がなかったのに、申し込みが増えました！
というのもある。

こういった感想が毎日のように寄せられるので、
自分の能力を異次元に高めたい！という人も絶対にビジネスはやった方が良い。

ビジネスをすると常に考える習慣が身について
脳みそが鍛えられるので、びっくりするぐらい地頭が良くなる。

最後に

これまで話した通り、僕は高校まではデブで陰キャラで貧乏でモテなくて、
周りに信用できる人もいなくて、将来に希望も持てなくて、
いっそ死のうかな？と思うぐらい暗い人生を送っていた。

会社員の時は辛そうな先輩方を見て暗い未来に絶望したり、
仕事が忙しすぎて、うつ病の手前になってしまったけれど、
ビジネスと出会ったおかげで今は超人生が楽しくなった。

僕は色んなビジネスを経験したり、色んな人を指導して思うのが

世の中の

「良い大学を出て、大企業や公務員に就職して、安定すべき！」

みたいな風潮には疑問を感じる。

もうそんな時代じゃない。

ほとんどの大企業はこの変化が早い時代についていけず、

社員に効率の悪い仕事をさせ続けているし、

youtuberやインフルエンサーという職業が生まれたように、

これからは個人が活躍する時代になる。

公務員のようなお役所仕事はシステム化やＡＩが発展すればするほど、
どんどん要らなくなる。
実際、とある市役所でＡＩに仕事を任せたら
９０％以上の業務が要らなくなったという実験結果もある。

人口減少していく日本で税金から給料を貰っている公務員が
安定という考えの方が違和感を感じる。

それに、世の中には一定数、僕や僕の仲間たちのように、
『普通の社会』に適合できない人がいる。

例えば僕は
封筒を開けるのが苦手で、一つの封筒を開けるのに1週間ぐらいかかる。
開けないと殴るぞと言われたら出来ないことはないけれど、
ものすごくめんどくさい。

なので支払い系や申し込み系が遅れることが多いので
封筒を開けるのを事務員さんにお願いしている。

あとは管理能力がない。
複数のプロジェクトを同時進行で進捗管理するとか超めんどくさい。

組織への適合能力もない。
大きな組織の中のイチ歯車として
たくさんの人と協力して何かをやるのが苦手だし、

大人数だとあーでもない、こーでもないっていろんな意見があって、
それを全部満たそうとして妥協作の塊みたいなのが出来てしまうのが嫌だし、

少人数だと頑張れるけど、
大人数だと自分が頑張らなくても周りが頑張ってくれるから
別に自分は必要ないんじゃないかな？って思うし、

あと、たくさんの知らない人とコミュニケーションするのは疲れる。

こんな風に、会社に向いてないけど、頑張って合わせて働いている。

という人は一定数いる。

でも、昔の僕のように、

そういう人が自分を押し殺して、無理に社会に適合しようとして、

うつになったり、毎日嫌々仕事をしてパフォーマンスが発揮できない

というのは非常にもったいない。

社会にとって大損失だ。

本当はもっと秘められたパワーや、もっと他に活躍できる場所が必ずある。

なにわがままを言っているんだ。

それが社会で働くということだ。

という意見もあるけれど、

そんなつまらない社会に自分を合わせて、

つまらない人生を送って病気になるぐらいだったら

自分のわがままを押し通せるぐらい勉強して行動して、

自分にとって最高な人生を実現すれば良いじゃないか。

ひたすらゲームをしたり、
ひたすら漫画を見るって人生があったって全然良い。
大事なのは、それを実現するために行動すれば良いのだから。
念のために言うけれど、みんながしろとは思わない。
そもそもこの本に書いてることを全員が実行したら、社会が成り立たなくなる 笑
この本を見て刺激を受けて、本当に行動してしまう一部の愛すべきアホが生まれればと願う。

一番ダサいのは
本当は羨ましいと思いながら、批判や反例探しばかりして何もしない人や、
何も行動せずに歳だけとって、
「俺もな、昔は起業したいとか思っていたよ。
だけどな、会社を頑張って４０年やって見えてくるもんがあるんだよ」
と、起業を経験したこともないのに
若い人の可能性を潰そうとしてくる昔の僕の先輩みたいな人が一番ダサい。
むしろ若い人の挑戦を応援できる大人になれんのか、と思う。

若さについて話すと、若さに年齢なんて関係なくて、
何歳になっても今が一番若いのだから、挑戦しようと思った時がチャンスだ。

例えば、僕の尊敬する親戚のおじいちゃんはロシアに行ってみたいからと、
８８歳になった今からロシア語を勉強している。
年齢なんて関係なくて、気づいた時が自分にとってのタイミングなので、
その時に始めれば良いのだ。

昔の僕のように、親や先生に言われるがまま、
良い大学を出て、良い会社に入っても現状に不満を持っている人、

人生に違和感を感じている人はたくさんいる。

でも、良い大学を出ていたり、大企業にいる人ほど
今まで積み上げてきたものを捨てるのが怖くて、
その違和感を無視したまま、最終的に壊れてしまう人が多いのは
非常にもったいない。

僕がトヨタで見てきた人のように、
本来めちゃくちゃ活躍できるはずだった人が、
会社のクソなシステムやクソな上司のせいで潰れてしまうのは
本当にもったいない。

だから、そういう人は自分でビジネスをするってことを
選択肢の一つとして考えてみてほしい。

やらされ感を感じたまま嫌々やる仕事より、自分から主体的にやる仕事の方が
絶対に生産性が高いし、そんな人が増えたら、もっと日本は良くなると僕は信じている。

そして、自分は学歴なんてないよって人はもっとチャンスだ。

僕が自分でビジネスするのが良いなと思うのは、
何歳になっても、どんな人にも平等にチャンスがあるところだ。

会社勤めだとそうはいかない。
トヨタや日本の大企業はバチバチに学歴フィルターがかかっているし、
学閥もあるので、大企業で高い給料を貰いたいと思ったら、
必然的に良い大学を出ないといけない。

でも、起業の世界だったら関係ない。
犯罪歴があっても、履歴書の経歴が綺麗じゃなくても、
中学卒業でも関係なく稼げるチャンスがある。
起業の世界ではバカの方が稼げるって言われているけれど、

それは学歴が高い人よりも、学歴がない人の方が思考がシンプルで、
失うものがないので挑戦しまくれるからだ。

僕の知り合いの社長で、年間利益２億の会社を経営していて、
自分は中卒だけど、従業員はＭＥＮＳＡ会員（ＩＱ高い人しか入れない会の会員）の
天才を雇っている社長がいる。

その社長は自分が中卒で頭が悪いから、
自分より頭の良い人を雇って頑張ってもらってるんですよーと言っていた。

その社長は昔はめちゃくちゃヤンキーだったらしく、

腕に根性焼きの痕がたくさん残っていた。

そんな人、普通の生き方であれば、工場の期間工とかじゃないと働ける場所がないが、起業の世界だと2億の社長になれるわけだから、本当に起業は素晴らしい。

他にも、工業高校卒で年商７０億の会社の社長をやっている女性だっている。

僕や僕の周りでうまくいっている人を見ると、元は劣等生だった人が多い。

元から優秀で会社や学校で活躍してたって人は少ない。

そもそも、元から優秀な人は会社で活躍できるから起業の世界には来ない。

劣等生だからこそ、自分でも成功できそうなコスパが良い世界を探すのだ。

僕が今のように楽しく生きられるのも、トヨタにいた時に

「なんでこんなに死ぬほど忙しくいんだ。

精神病になりながら超脳みそ使う仕事してるのに、

３０代後半でやっと年収１０００万っておかしくねーか・・・

名古屋でランボルギーニ乗ってる兄ちゃんは

絶対こんな辛い思いせずにもっと大金を稼いでるはずだ・・・」

と思ったのがきっかけだった。

逃げたい、楽して稼ぎたい。っていう超不純な動機だったけど、

結果、今こうして楽しく生きていられるのだから、

動機なんてなんでも良いのだ。

動機は何であれ、きちんと動き始めることが一番大事だ。

ラッキーなことに、

ほとんどの人はやる前から自分には無理だと決めつけて、挑戦しようとしない。

試しもせずに想像だけで自分には無理だと言ってしまう。

そして、自分が所属する優秀なライバルがひしめく競争の世界で
仕事を頑張って給料を上げることばかり考えてしまう。

だからこそ、チャンスなのだ。

みんなが走るのを早くしようと、必死に勉強し、過酷なトレーニングする中、
要領の良い人は頑張って走らなくても良いようにバイクを探してくる。

周りの人は言う。あいつはトレーニングもしないで何をしてるんだ。
ビリけつになっても知らないぞと。

でもバイクを見つけてきた人は、あとはまたがってアクセルをひねるだけで
何年間も必死にトレーニングしてきた人たちを一瞬で抜きされる。

目的地に着けば良いだけなのに、手段は一つしかないと勝手にみんなが思い込んで、
他人にも押し付けてくるケースが日本は非常に多い。
手段なんて無数にあるのに。

だからこそ、まずは自分と違う世界を知ることが大事なのだ。
より良い世界、便利な手段があることを知って、乗り方を学ばなければ、
そもそも走り出すことすらできない。

昔の僕のようにくすぶっている人が、
過去ではなく、今が一番楽しい。そして、将来が楽しみでワクワクする。
と言える人生を送れるよう、
今後も情報を発信していくことが僕の使命だ。

ブログやメルマガ、youtubeでは、
・知識・センス・人脈なしの状態から稼げる人間にステップアップするための方法
・小さく始めて大きく儲かる起業のやり方
・まず、何から始めたら良いか？
・お金持ちたちが見ている世界

・昔会社員だった自分に教えたい、異次元に能力アップしてライバルに差をつける仕事術や時間管理術、思考法

・楽しいと評判の懇親会の案内

・僕の挑戦の記録　etc.

を配信しているので、興味がある人はチェックしてください。

それでは、物語もそろそろ終わりです。

次は、ブログやメルマガ、youtubeでお会いしましょう。

追伸

最後まで読んでくれてありがとうございました。

この書籍は、画面の向こうのあなたを思って大切に綴った書籍です。

現代社会において、

短期間で効率よくお金と時間の両方を手にして、人生を変える唯一の手段、

「自分でビジネスをする」という世界について、

僕が体験してきたありのままを書き記しました。

ビジネスを始める・始めないに関わらず、
「ただのビジネス本だ」と思ってナナメ読みするのではなく、
願わくば隅々までじっくり読んで、
一つでも多くあなたの人生がより楽しく豊かになるヒントや
心に残る言葉を見つけて持ち帰ってもらえたら
それだけで嬉しいなと思い、ひそかに書籍を書きました。

ここまで読んでくださってありがとうございます。
あなたのことを心から応援しています。

マスタング

ブログ：https://shintaro-narumi.com/

メルマガ：https://mustang555.com/p/r/s5Y80MJS

youtube：https://www.youtube.com/channel/UC1N2FXGtB7qk_eT9pbVF9eg/

ツイッター：https://twitter.com/1Mustan5